



株式会社FTS

〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地
TEL 0565-29-2211

<https://www.fts-com.co.jp/>

F u e l T o t a l S y s t e m s

FTS REPORT 2024

株式会社 **FTS**



変わらぬ意思で、変わりゆく未来へ

私たちFTSは、人間性尊重を基軸にグローバル企業として
社員一人ひとりが新たな価値の創造に努め、
お客様に喜ばれる商品・サービスを提供する
エネルギー総合システムサプライヤーをめざします。

『変革』と『挑戦』を合言葉に、
未来に向かって力強く前進する私たちFTSにご期待頂くと共に、
変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

持続可能な社会を次世代に引き継ぐために、
環境と人間にやさしい技術や商品を通して、
未来の「ものづくり」を実現します。

世界情勢と足元の変化を見極め 「100年企業」に向けた成長戦略を推進します。

2022年6月、私が社長に就任した当時のFTSを取り巻く環境は、ウクライナ紛争による国際情勢の不安定化、エネルギー費・原材料の高騰、半導体不足による生産変動及び労務費の上昇などに加えて、自動車業界におけるEVシフトの大きなうねりの中にありました。この様な環境下で収益状況が悪化していく中、社内外において非常に複雑化した状態により、その要因分析に手こずり、改善の方向性を示せずにはいました。そういった状況において、徐々に見えてきた課題を整理し、「100年企業」に向けた2030年までの3つの戦略を打ち立てました。

100年企業に向けた会社の変革

- 戦略Ⅰ コアビジネスの**限量経営**
- 戦略Ⅱ コアビジネス〔燃料系〕の**高付加価値化**
- 戦略Ⅲ **新規ビジネス**の創出

戦略Ⅰ、Ⅱで既存事業に磨きをかけて稼ぎ出した原資を将来に向けた戦略Ⅲへ投資していくという両利きの経営を図り、未来への挑戦を続けていくシナリオです。この戦略を踏まえて、昨年、短中期経営計画として2026年までの計画も策定しました。その先の将来は、大変不透明ではありますが、電動化、カーボンニュートラルへの変化をできる限り正しく捉え、健全な危機感の下で常にアップデートしながら戦略に磨きをかけたいと考えています。更に、その先にある2030年を見据えた事業計画である、FF30 (FTS Future2030) の構想を検討しています。これを、「100年企業」に向けた会社変革の道しるべとしたいと思います。

23年度は、戦略の確実な実行と共に、盤石な会社経営基盤確立のための5つの強化テーマを推進することにより、少しずつ収益に繋がるようになってきたものの、これからが正念場です！ 更なる成長に向けたチャレンジを続けて参ります。

FTSは非上場企業ではありますが、今回、このFTS Reportの発行を通じて、積極的に情報を開示する事に致しました。社員やそのご家族、株主、お客様、地域社会の方々など、多くのステークホルダーの方々により一層、FTSの取り組みに対する理解を深めて頂けたら幸いです。

取締役社長

100年企業に向けた会社の変革

- 戦略Ⅰ コアビジネスの**限量経営**
- 戦略Ⅱ コアビジネス〔燃料系〕**高付加価値化**
- 戦略Ⅲ **新規ビジネス**の創出

戦略を支える盤石な会社経営基盤の確立

5つの強化テーマ

- ① 安全・防火・品質：相互啓発の風土づくり
- ② 原価・収益：自主自立に向けた収益体質強化
- ③ SDGsの推進
- ④ デジタル化 (DX) 推進
- ⑤ コーポレートガバナンス強化

戦略を実行する上で 最も大切なのは4Sの徹底から

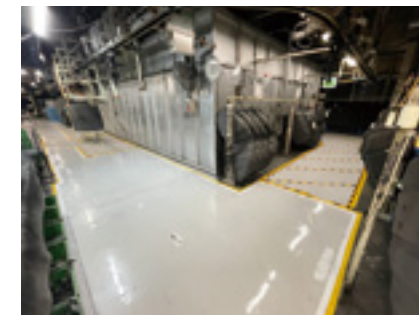
戦略を確実に実践していくにあたって、改めて重要だと痛感している事は、4S（整理・整頓・清掃・清潔）の大切さです。「安全・防火と品質は4Sから生まれる」という信念の下、私は、常々、社員みなさんにまずは、安全第一！ そのために4Sを徹底することを強調して発信し続けています。

職場の改善を図ろうとしても、整理整頓された職場でないと本質的な問題の見極めはできません。職場で正常と異常を定義し、分かり易くみえる化する事で一人ひとりの意識も徐々に変化していきます。まず、職場をキレイにすることから始め、正常・異常のみえる化から仕事のムダを認識し、改善し続ける。これにより更に収益に繋がる…大切なのはこの順番です。この考えを相互啓発型の企業文化として、社内の隅々まで浸透させる事で安全・品質が向上し、稼ぐ力が生まれると信じています。

この地道な活動を始めて約2年となります。徐々にではありますが、文化が浸透してきていると感じています。実際、23年度の収益結果に、4Sによる安全・品質などの地道な改善活動の積み重ねによる効果が見えてきました。

4S参考事例 明るくてきれいな工場づくり

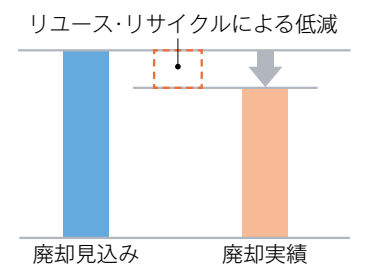
田原工場
4Sにより異常がみえる塗装工程づくり



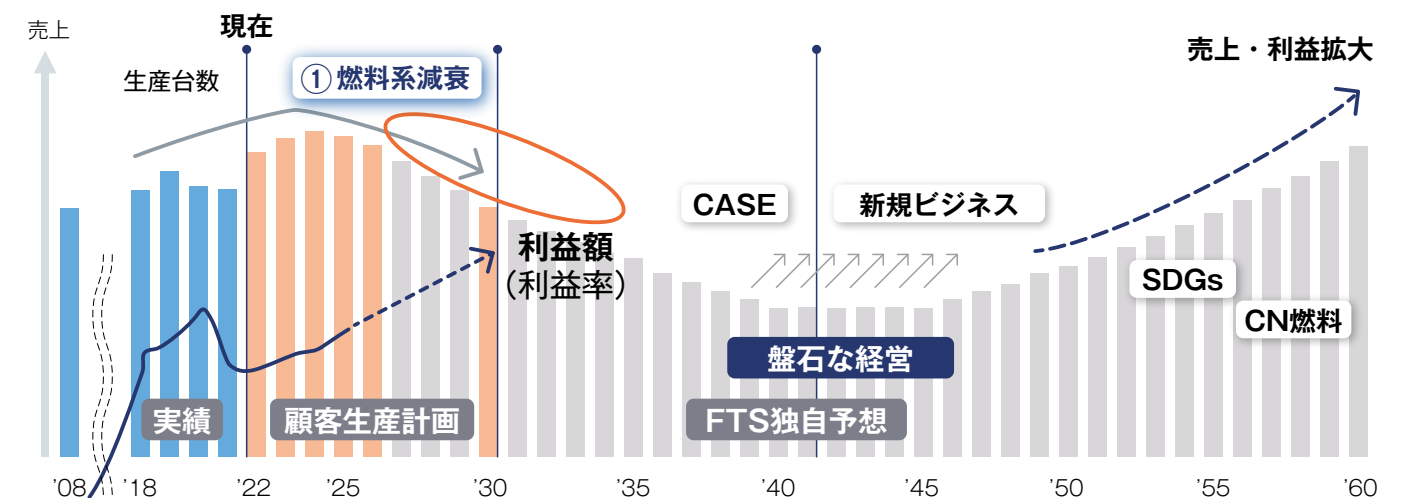
豊田工場
作業を阻害しない金型段取り専用通路整備



廃棄物低減



100年企業に向けた会社の変革シナリオ

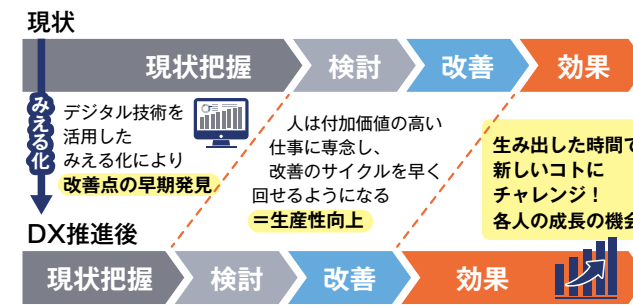


加えて、生産性を高めるためには、デジタル化が必須です。紙を中心とした仕事の進め方を改めて、デジタル化する事で更に改善が進むしくみづくりを進めていきます。

単にアプリケーションなどのシステム開発を個別に進めるのではなく、デジタル化した情報をつなげて全社で活用できるようにする。これにより、ムダを排除するための改善点が分かるようになってきます。改善を進め、さらにその効果確認までのサイクルを早く回せるようする。

これらの改善により生み出された時間を新しいコトに対するチャレンジに使う事で人の成長を促すと共に、会社の持続的成長に繋げて行きたいと思います。

単純に収益だけを追求することでは会社が良くなるということとは絶対にありません。良質なコミュニケーションにより、社員がイキイキと働ける職場づくりを継続する事で、全社一丸となって、改善を推進して行きます。



第3の創業期に向けて

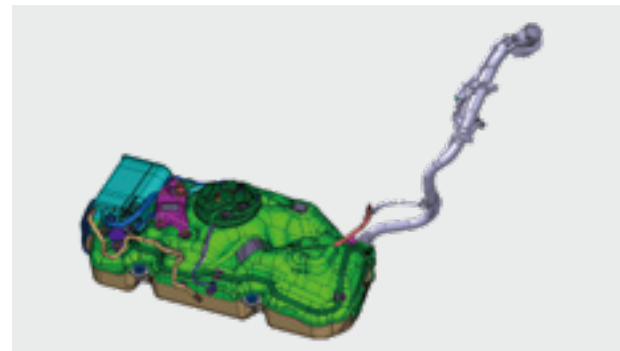
FTSは2042年に100年企業となりますが、その時点でタンクの生産台数はいまの半分程度になっていると予測しています。これまでの歴史を振り返ると、草創期は鉄製タンクの製造でのスタートでしたが、時代の要請に応えながらタンクの樹脂化にも対応し、現在では鉄製と樹脂製の生産比率は凡そ3：7の割合になっています。

鉄製タンク生産の時代が第1の創業期とすると、樹脂化とグローバル拡大が第2の創業期といえます。そして、第3の創業

コアビジネスの付加価値を高め続ける

戦略IIでは、現在のコアビジネスの商品にさらなる付加価値の向上を図っていきます。タンクの付加価値をしっかりと高めていくことは、システムサプライヤーである我々の責務だと考えています。例えば、更なるモジュール化の促進やBEV、PHEVなど多様な電動車のプラットフォーム集約化の流れに対する対応及びクルマの低ハイト化デザインから要求される、より薄く、よりフラットな形状に応えるなどの付加価値の高い製品提案です。また、既存設備を賢く使った多品種少量生産、減衰期を見据えた部品種類削減などにより、お客様の困り事の解消とともに、社会課題の解決につながる付加価値を創造していきます。

モジュール化による付加価値向上

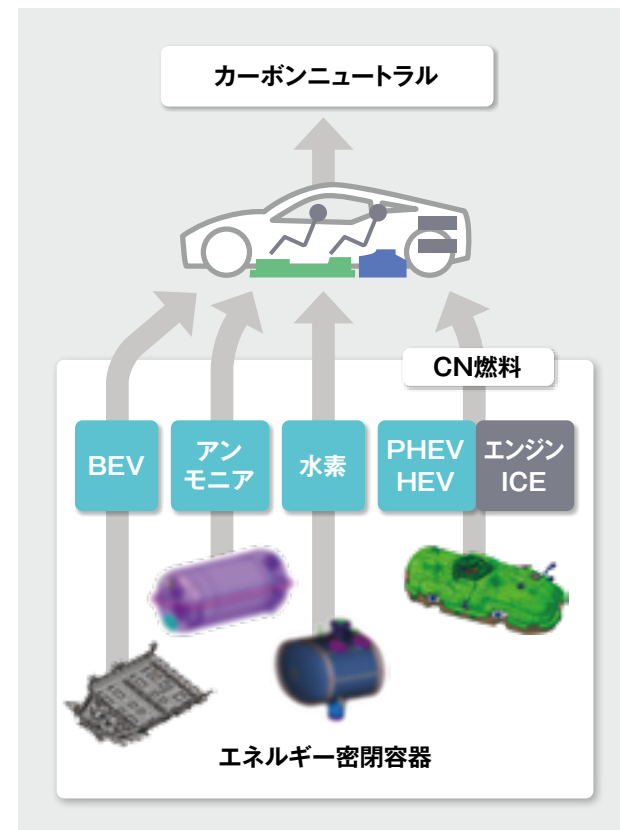


「エネルギー密閉容器の専門メーカー」をめざします

仮に、自動車のカーボンニュートラルに向けての正解が、BEVだけとなると、タンクは必要なくなります。しかし、世間で、『敵はCO₂』だと言われてるように、社会に求められているのは、温暖化の原因とされるCO₂を減らす事でBEV化だけが答えではありません。燃やしてもCO₂を出さない液体水素、アンモニアなどのクリーンなカーボンニュートラル燃料（以下、CN燃料）の研究は社会課題として世界各地で進められています。それに乗り遅れることなくCN燃料に対応したタンクを開発することにより、「エネルギー密閉容器の専門メーカー」としての確固たる地位を築き上げていく。

もちろん、毒性の高いアンモニアや－253℃という極低温の液体水素を貯蔵し、過酷な使用環境に耐えうる信頼性を確保するための技術的なハードルは相当に高いですが、クルマに搭載するエネルギー密閉容器を造るという事業領域はこれまでと同じです。EVのエネルギー源であるバッテリーも全て密閉容器。ここに我々 FTSが培ってきた、車載用エネルギー密閉容器づくりの強みを生かして貢献できる分野が広がっています。まだまだ時間がかかりますが、粘り強く実行していきます。

マルチパスウェイに対する車載用エネルギー密閉容器



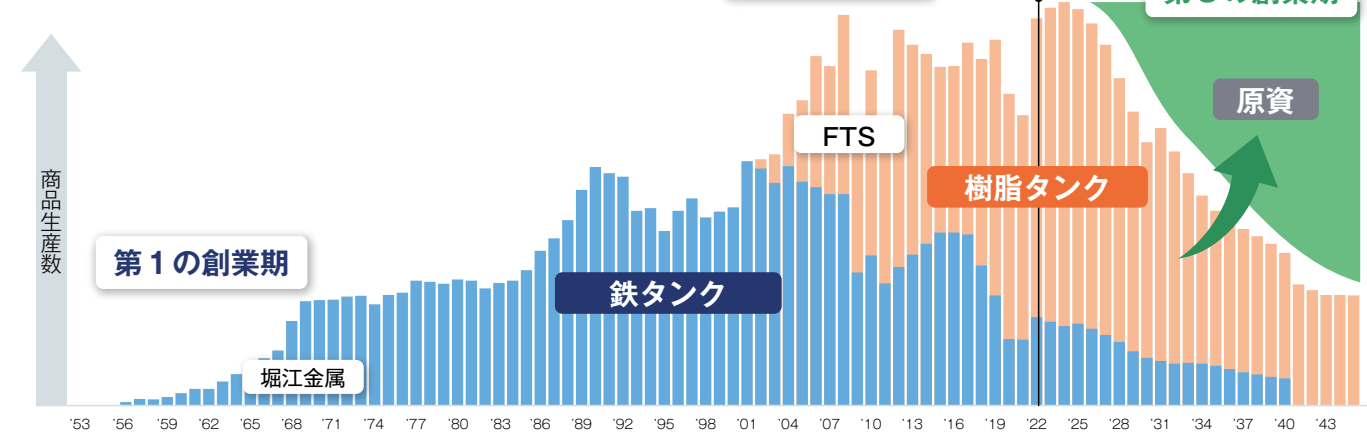
『全員でチャレンジ！“One for All , All for One”』

各地域に根差す会社として、「選ばれる会社」で在り続けるために、FTSポリシーで掲げる、『社員の幸福』、『社会の信頼』、『絶え間ない進化』の実現に向けた弛まぬ努力を続けて行きます。「社員の幸福」については、お互いに各々の価値観を認め合い、働きやすく、やりがいに満ちた仕事を通じて、人間的に成長できる企業風土づくりを重点に取り組んでいます。次に「社会の信頼」については、地域社会の一員としての責任を果たし、信頼される会社で在り続けるために、先人たちがつくり上げてきた社会からの信頼をしっかりと継承し、コーポレートガバナンス体制を強化して行きます。また、社会貢献としては、「SDGs未来都市」に選定されている豊田市に本拠地を構える会社として、SDGsのめざすゴール達成に貢献する事業活動が大切だと認識しています。23年度豊田市SDGs認証制度において、我々の活動を評価して頂き、『シルバー認定』を授かりましたが、その名に恥じないよう、事業を通じた更なる貢献に努めていきます。また、ビジネスパートナーの方々とも課題を共有し、風通しの良いコミュニケーションを取りながら共存共栄の未来を描いていきます。

最後に、現在、私たちは、『全員でチャレンジ！“One for All, All for One”』（一人ひとりみんなのために、みんなは一つの目的のために、あるいは、みんなは一人のために）というスローガンを掲げて、全社一丸となって取り組んでいます。ボールを持って走っている人の後方には、必ず仲間がいます。全員でパスをつなぎながら、ゴールをめざしていきます。一人ひとりが、全員のために責任を果たす人間になる。そんな一人ひとりが集まって、全員で勝利に向けて一丸となって進んでいく。

お互いを支え合い、助け合いながら、一つの目標に向かっていく風土を大切にしていきたいと考えております。そのためには、仲間を思いやる心、周りに感謝をする心、相手に対し謙虚でいる心がとても大切になります。FTSもオンリーワンの技術をさらに進化させ、社会に選ばれる会社、貢献し続ける会社であり続けたいと思っています。これからのFTSに是非ご期待ください。

FTSビジネスの変換

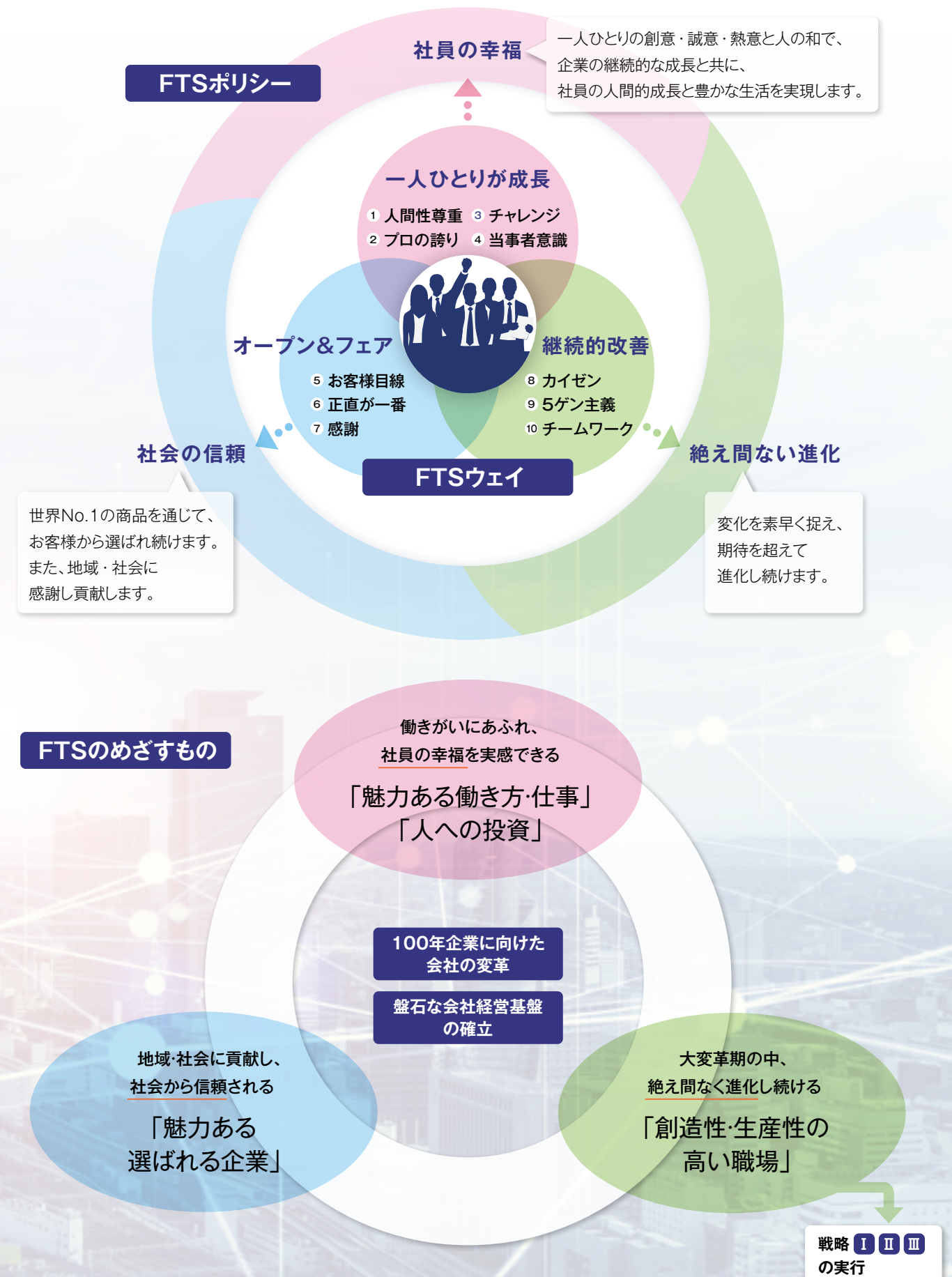


基本理念

全員参加でお客様から信頼される
“ものづくり”と“人づくり”
No.1の技術と品質で世界に飛躍

経営理念

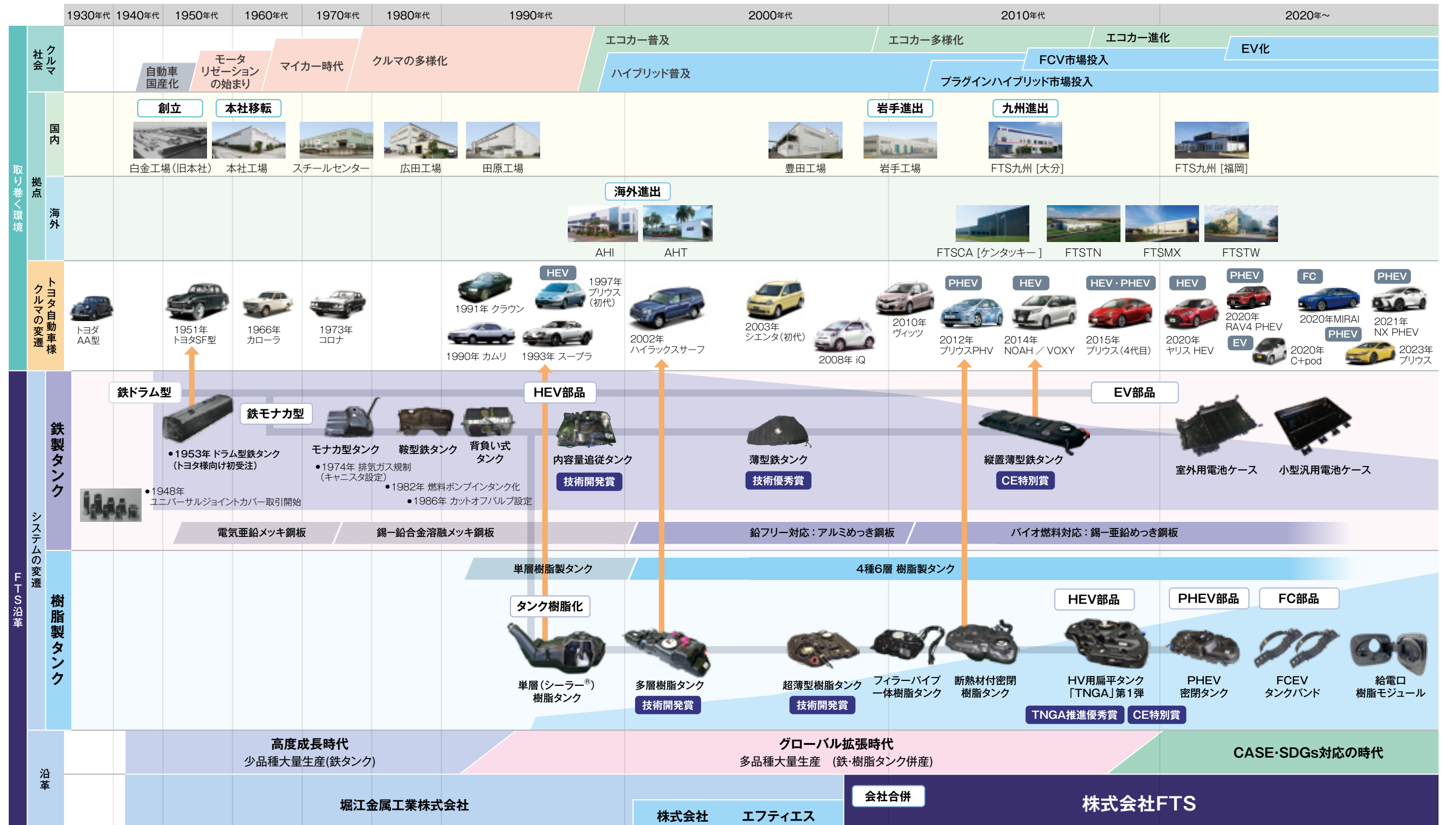
- 1 内外の法及びその精神を遵守し、オープンで公正なエネルギーシステムサプライヤーをめざします。
- 2 グローバル企業として、地域に根付いた企業活動を行い、経済・社会の発展に寄与します。
- 3 時代を先取りした研究と新たな価値の創造に努め、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供します。
- 4 クリーンで安全な商品の提供を通して、地球環境に貢献します。
- 5 個人の創意とチャレンジ精神を育み、チームワークの強みを生かし、やりがいのあるいきいきとした企業風土をつくります。



FTSの事業の深化・進化と価値創造の歴史

FTSの歩み（1930年代～現在）

私たちFTSは、人間性尊重を基軸にグローバル企業として社員一人ひとりが新たな価値の創造に努め、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供するエネルギーシステムサプライヤーをめざして、先人達の想いを受け継ぎながら『変革』と『挑戦』を合言葉に成長してきました。持続可能な社会の実現に向けて更なる深化・進化を続け、環境と人にやさしい技術を通じた明日の「ものづくり」を実現します。



画像提供：トヨタ自動車株式会社

FTSの強みと主要製品

FTSの強み

- 事業の持続的成長を支える人材育成と健康経営の推進
- トヨタ系システムサプライヤーとして、クルマの動力源であるエネルギー（燃料等）を安全安心に貯蔵する“重要保安部品”である鉄製・樹脂製の車載用エネルギー密閉容器づくりのノウハウ
 - ビジネスの大前提である安全、防火管理体制
 - 確かな技術力、ものづくり力 及び信頼性の高い品質と高いシェア
 - 開発・設計から製造・販売まで手掛けるものづくり一貫体制

ものづくり一貫体制



主要製品紹介

FTSでは、フューエルタンクをはじめとした様々な製品において、衝突安全性、耐腐食性、耐久性、軽量化、コスト低減、環境負荷低減などのハイレベルのニーズに対応しています。

燃料系 主要製品

フューエルタンク

鉄製フューエルタンク／タンクバンド



樹脂製フューエルタンク／タンクバンド



フィルターパイプ

鉄製



樹脂製

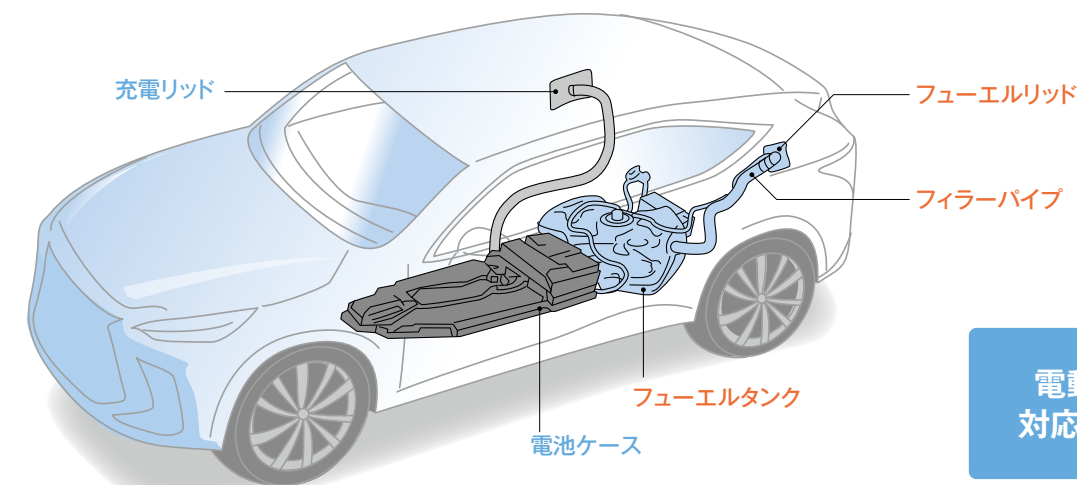


フューエルリッド

鉄製



樹脂製



電動化 対応製品

PHEV車両用 電池ケース



小型BEV用 電池ケース

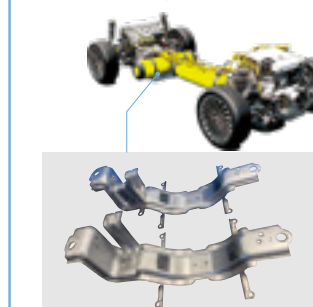


PHEV・BEV・FCEVシステム

給電口樹脂 リッドモジュール



FCEVタンクバンド



将来Vision（成長・価値創造戦略）

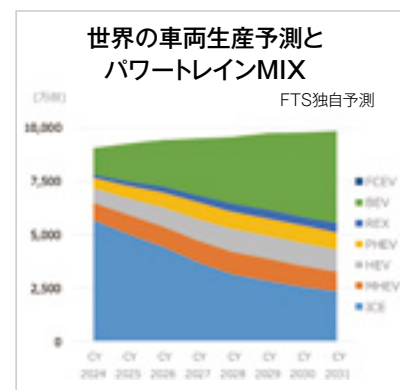
戦略企画担当役員 Message

総合企画本部長 梶川 勝弘



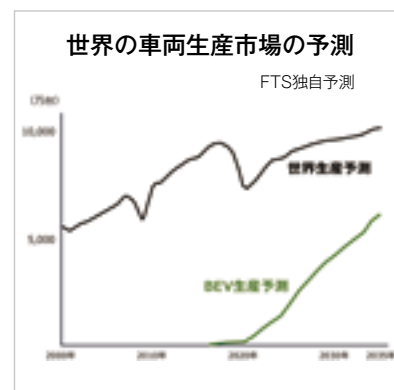
私たちはクルマの電動化による燃料系減衰がトレンドでも、100年企業に向け、エネルギー密閉容器の専門メーカーとして持続的な成長をめざします。お客様を第一に協力会社・関連会社と共に既存コアビジネス（燃料系）をより最適化・効率化し、新規ビジネスへリソースをシフトしながらCASE対応技術とSDGs（CN液体燃料）対応技術を磨き、マルチパスウェイに備えています。コロナ禍の減産期間を将来模倣として限量経営により経営体質を強化し、2023年以降を第3の創業期として「両利きの経営」で未来を開きます。そして、コアビジネス減産期でもお客様へ貢献し続けるために稼ぐ力を磨き、捻出した原資を新規ビジネスへ投入していきます。

1) 電動化加速の現状



2020からのコロナ禍と各国の自国第一主義（テックナショナリズム）が電動化を加速

2) 世界マクロトレンド



2017年～2028年は「実質ゼロ成長」総生産数は伸び悩む中でBEV化は加速

FTS2026 ビジョン

環境変化に柔軟に対応し、No1の品質・技術・生産力をモノづくりの技で磨き、お客様に喜ばれる商品を創り続ける
エネルギーシステムサプライヤー

100年企業に向けた 会社の変革

2024 ~

更なる 飛躍年

2027 ~ 2030

極めて重要な3ヶ年

- 戦略Ⅰ コアビジネスの限量経営
- 戦略Ⅱ コアビジネス（燃料系）の高付加価値化
- 戦略Ⅲ 新規ビジネスの創出

- 強さを兼ね備えた経営体質（変化・やりぬく・愛社）
- グローバル 既存拠点拡充
- 独自商品開発、高付加価値とブランド力向上

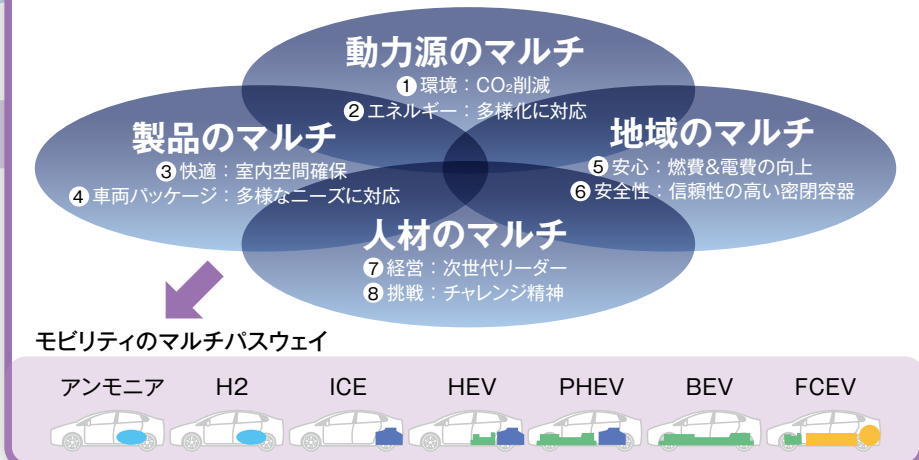
- 商品力向上（VS）
- 真のグローバル化（FG）
- 限量経営（CR）

- エネルギーシステムサプライヤーへの進化（Shift）
- 経営体質の更なる深化（Beyond）
- グローバルの有機的連携の強化（Link）



エネルギー密閉容器の専門メーカー

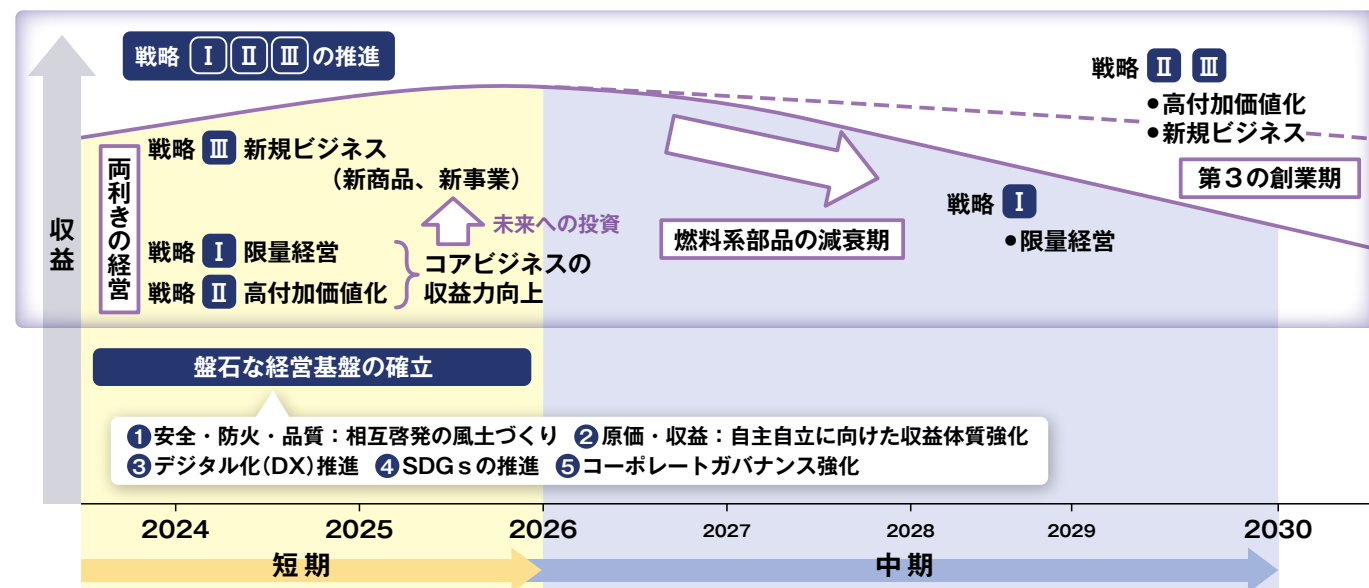
FTSマルチパスウェイ戦略“4つのマルチ”への対応



100年企業に向けた会社の変革（戦略Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

会社変革のための戦略推進

燃料系減衰期に負けない“稼ぐ力の底上げ”と“持続的成長”



戦略Ⅰ 環境認識・分析とコアビジネスの限量経営

経理担当役員 Message

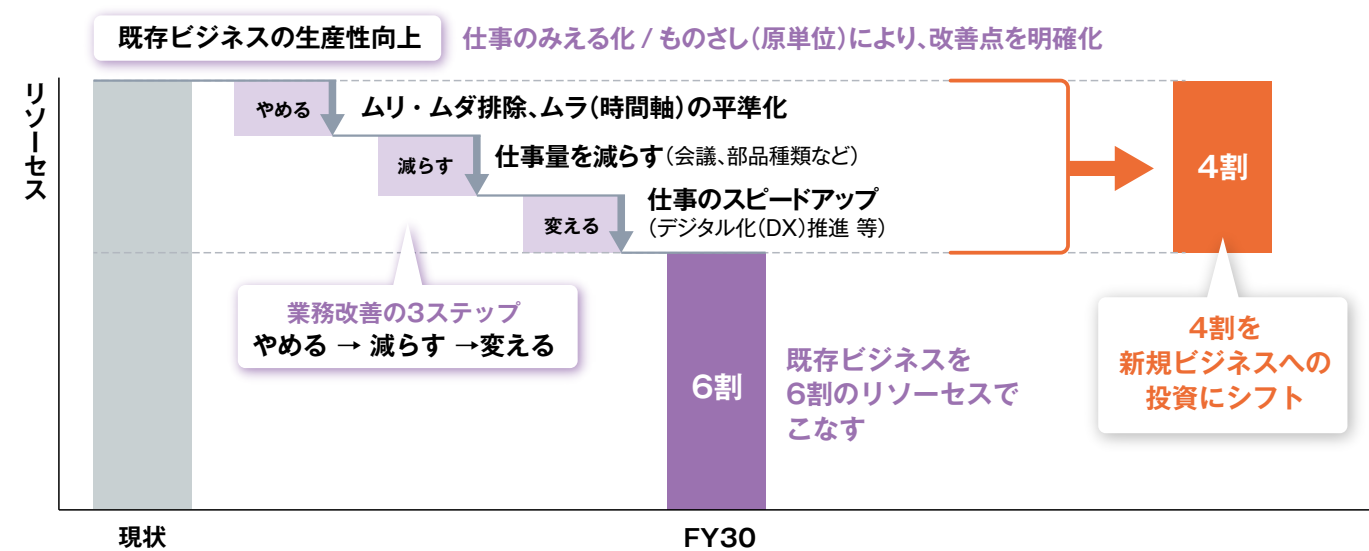
アドミニストレーション本部CFO 小山 秀実

燃料系部品の減衰という環境下において、100年企業をめざし持続的に成長していくために、現在のコアビジネスを徹底的に効率化し、限られた生産量でもしっかりと稼ぐ収益体質を実現するとともに、コアビジネスの高付加価値化や新規ビジネスの開拓に必要なヒト・モノ・カネのリソースを捻出していきます。2030年にコアビジネスの利益率10%という目標を掲げ、そのために必要な「今の仕事を6割のリソースでこなす」ための抜本的な生産性向上や業務の見直しを、全社一丸となって推進していきます。



基本的な考え方

2030年に利益率10%という目標をめざし、体質強化活動を推進しています。



開発・技術担当役員 Message

R&D本部長 岩本 宏明



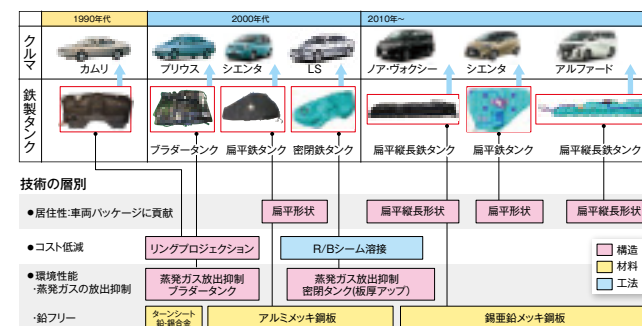
FTSは鉄製、樹脂製の燃料タンクで培ってきた領域の強みを更に進化させ、「エネルギー密閉容器の専門メーカー」として、カーボンニュートラルやSDGsの実現、社会課題の解決に貢献して参ります。FTSが考えるマルチパスウェイは「動力源」「製品」「地域」「人材育成」のマルチを柱とし、電動化製品や未来のカーボンニュートラル燃料の密閉容器にもチャレンジします。実現に向けて、社内外の仲間づくりと人づくりはとても大切と思っています。新たに関係会社との枠組みもつくり、グローバルで推進していくことをめざします。One for All, All for One! 明るい未来の実現に尽力して参りますのでご期待ください。

FTSコアビジネスと将来戦略

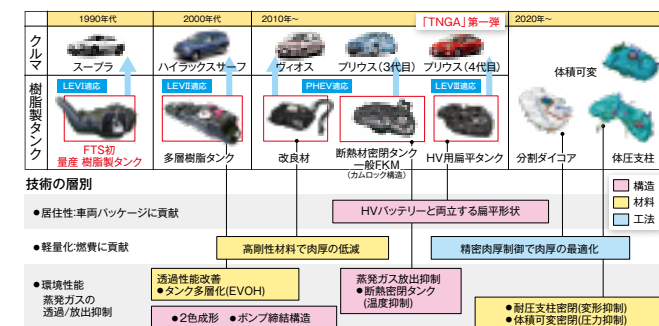
車の動力源の燃料を安全・安心に貯蔵する高品質な製品として鉄製、樹脂製『燃料タンク(重要保安部品)』を一貫して扱って参りました。お客様のニーズに対して『材料』、『構造』、『工法』を進化して最適な製品を提案・提供。大変革期のなか100年企業をめざし『戦略Ⅱ』コアビジネスの高付加価値化『戦略Ⅲ』新規ビジネスの創出を掲げ、FTSマルチパスウェイコンセプト“4つのマルチ”により社会課題の解決に貢献して参ります。



鉄タンクの歴史 強み:深絞り扁平形状、連続接合、蒸発ガス抑制



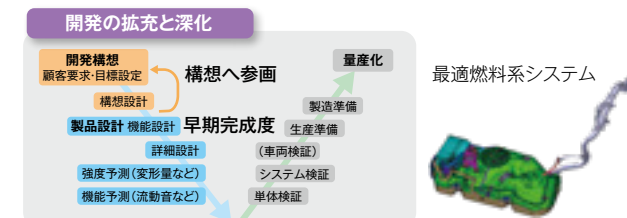
樹脂タンクの歴史 強み:一体成型、扁平・肉厚制御、蒸発ガス抑制



戦略Ⅱ コアビジネス(燃料系)の高付加価値化

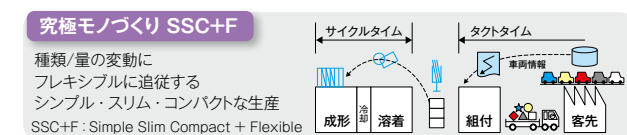
1) 燃料系システムサプライヤーとしての責務

- システム開発の委託拡充と深化
構想段階から参画、最速燃料システムの提案(既存タンクの活用と統一)
- グローバル対応(1000万台 ICE・HEV・PHEV)
良品廉価なタンクを最後の1台まで造り続け、グローバル同一同質を推進



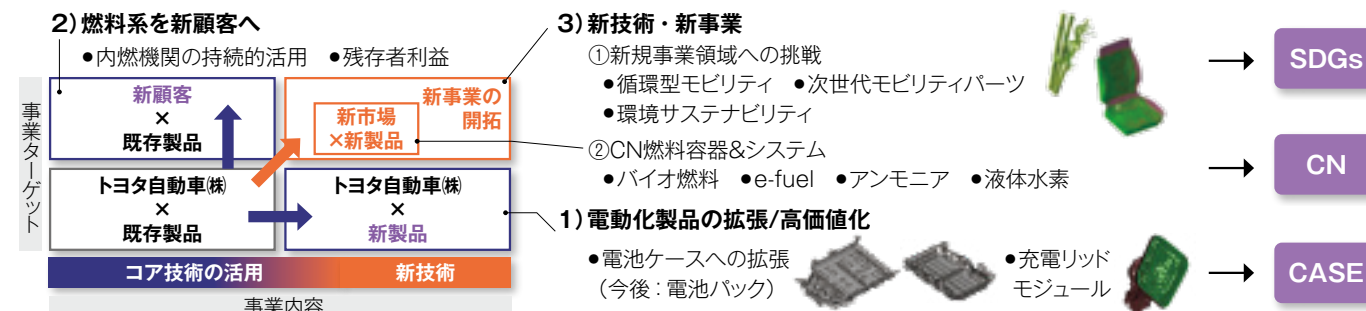
2) 究極モノづくり

- 既存アセット活用大前提(型・設備投資削減 仕入先含む)
- 超多品種少量・補給生産 SSC+Fの更なる進化(生産性向上3%/年)
- 整流化: 社内外在庫削減、外部倉庫流出金廃止



戦略Ⅲ 新規ビジネスの創出

既存技術の進化/活用により新製品・新事業に挑戦



100年企業に向けた会社の変革（戦略I、II、III）

FTSが描く「未来への貢献」 ～マルチパスウェイコンセプト“4つのマルチ”～

様々な動力源に対して「エネルギー密閉容器」を組合せ
もっといいクルマづくり

- 低くてカッコいい
- 室内、荷室が広い
- 安全安心
- 経済性が高い

FTS専門領域：床下機能部品
【電池】軽量、低ハイト 【タンク】扁平、廉価（鉄・樹脂）

4つのマルチ

動力源
地域
人材
製品

ものづくり一貫体制

企画・開発
品質保証
One Team
人材育成
ものづくり一貫体制
製品設計
生産準備
評価・解析

“Fuel Total System” から“Future Energy Total System”へ

鉄/樹脂タンクで培ってきた領域の強みを進化、『ものづくり一貫体制』を究めて最適なソリューションを提案・提供。モビリティの進化と未来のエネルギーに寄り添い『エネルギー密閉容器の専門メーカー』として“4つのマルチ”を柱に社会課題の解決に挑戦して参ります。

あらゆるエネルギー源

水素
電気
再エネ
窒素
アンモニア
CO₂ 吸収
メタン
e-fuel
バイオ燃料

動力源のマルチ

FCEV
水素の普及
→容積、コスト改革

BEV
電費、カッコいい
→軽量小型/低ハイト

PHEV
プラクティカルなBEV
→早期実現と展開

HEV
1000万台の支え
→更なる競争力

ICE
グローバルで必要
→お手頃に環境対応

CN燃料HEV・PHEV
バイオ燃料、e-fuel
液体水素、アンモニアなど

製品のマルチ

車両ニーズ・エネルギー特性に応じた密閉容器（マルチな材料・形状・モノづくり）

【中期】社会課題
【短期】社会課題
【中長期】社会課題

鉄タンク技術→電動化製品へ

電池ケース&バック 開発ロードマップ
ケースの深化・進化と電池Assyへの挑戦

樹脂タンク技術→システム進化

部品メーカー
タンク、フィラ、リッド
【強み】
●一体成型
●肉厚制御
●蒸発ガス抑制

稼働力の向上

鉄タンク技術→CN燃料容器へ

CN燃料容器 開発ロードマップ
エネルギー特性（圧力・温度）に応じた密閉容器への挑戦

実績

●電池ケース Step1
構造・工程をシンプル化
電動化、コスト競争力に貢献

RAV4 (PHEV) プリウス (PHEV)

短期

●電池ケース Step2 '26～
部品拡大
機能付与
●シェアパネル（次期PHEV）
●ロアケース+冷却器の構造シンプル化（先行開発）

中期

●電池Assyへの挑戦
'30以降～
セル、機能部品の組付、検査（先行開発）

SBM
ECU
JB
マイカ板
電池セル
ロアOW ASSY

実績

●システムサプライヤーへ
【制御】キャニスタ
●蒸発ガスを吸着/開放
●吸着ガスをエンジンへ
【給油】燃料ポンプ
●燃料をエンジンへ
●漏れ防止 (Out off valve)
【給油】フィラ・リッド
●燃料をタンクへ
●燃料を貯蔵
【貯蔵】燃料タンク
●燃料を貯蔵
●蒸発ガスの透過抑制

短期

●最適システムの進化
'26～
部品インテグレート
（コスト競争力）
モジュール納入
（車両工場のリーナ生産）

中長期

●新燃料への適合
'30以降（目標付：'25）
高価値化
●パイオ、合成燃料、e-fuel
（樹脂、ゴム等の材料適合）

短中期

●液体水素の密閉容器
'24～ モータースポーツで検証開始、量産'30以降～
世界初！
容器則の学び、評価条件づくり、新構造の開発と認可取得
“水素仲間企業”との連携 2024年度スーパー耐久用を開発
●容量UP、体積効率UP（液化）
⇒精肉断面、断熱2重容器の開発
●水素脆化考慮、やや高い圧力
⇒ SUS厚板、高精度/深絞り、連続接合

中長期

●アンモニアの密閉容器
'30以降～
世界初！をめざして
評価基準づくり、安全安心な密閉新容器の開発（先行開発）
関係会社と'23 先行試作を開始
●絶対に漏れない安全安心
⇒冗長構造、超高度な信頼性
（加工、非破壊検査など）
●中度の圧力容器
⇒厚板、高精度/深絞り、連続接合

地域のマルチ

Mobility for All すべての人に移動の自由をめざし、地域に応じた動力源システムを“仲間と連携”して実現

パワートレイン動向（'30予測） 地域ごと、環境やニーズに応じたパワートレインが必要

●グローバル
●地域別

総台数：ゆるやかに増加
BEV（エンジン無）：拡大
PHEV/HEV等：持続的に必要

欧州：BEV拡大 中国：BEV拡大 北米：BEV拡大
中近東・アフリカ：マルチ 東南アジア：マルチ 日本・韓国：マルチ 南米：マルチ

FTSの開発・生産

◎：開発・生産 ○：生産

	タンク	電動化	CN容器
日本	◎	◎	◎
北中米	○	(○)	
アジア	○	(○)	
欧州・中国・GS			

FTSの開発・生産
既存拠点、アセット活用を前提に、新製品グローバル展開も検討

FTS拠点無い地域
車両メーカー、関連会社で連携、幅広い地域に貢献（協調領域）

GS：グローバルサウス

マルチな人材

モノづくりは人づくり コアを究める“専門人材”の拡充と広い知識で新たな領域に挑戦する“マルチ人材”の育成

未知の世界へ“パラダイムシフト”

専門人材の拡充
材料・機械・流体

新顧客
既存製品

新市場
×新製品

新事業の開拓

マルチ人材の育成
システム思考・未来志向
技術・マーケティング、協調

Ex.ドローン等
次世代モビリティ
循環型サステナビリティ

新領域人材の採用・育成
既知+電気、IT（多様性）

既知の世界
車載
ガソリン容器

コア技術の活用

新技術

トヨタ自動車㈱
×
既存製品

トヨタ自動車㈱
×
新製品

新価値創造 座談会

EVシフトやカーボンニュートラルへの対応、
そして次代のFTSの姿について…
各部署で活躍する若手社員と役員が語り合いました。



FTSの強みとこれからの課題対応

中村 一言で燃料タンクの製造と言っても、**FTSは燃料システム全体を提案できることが強み**ということ、お客様とのやりとりの中で実感しています。



古郡 設計もできて、実際にその妥当性を評価できる実験センターもあるので、**お客様に喜ばれる付加価値をつけてお届けすることもできます**からね。

中神 **薄く複雑な形状のタンクを、鉄でも樹脂でも開生産**できることも、貴重な存在だと思います。

岩本 **確かに、鉄と樹脂の両方でシステム提案できる企業は限られている**と思います。鉄製タンクの製造から始まり、時代の要請に応えるかたちで樹脂製にチャレンジしてきた結果、今があります。この**挑戦を歓迎するFTSの企業風土そのものが強み**かな。

中村 とはいえ、フューエルタンクそのものの需要が減ってきているのは感じます。

鈴木 将来的に、どんな製品に、どんな付加価値をつけていけばいいのか、なかなか良いアイデアが浮かばず悩ましいところです。



岩本 カーボンニュートラルに向け、**FTSはエネルギー密閉容器の専門メーカーとして「マルチ化」という考えのもと、電動化、水素やアンモニアの活用など、新しい動力源への対応を推進**していきます。

太田 いま、**あらゆる方向で可能性を探っています**が、明確なゴールというのではなく、まさに手探り状態です。いろいろな異なる意見をあつめながら、社内で方向性を見極めていきます。



古郡 **だとすると現状の仕事が今のままで良いという訳ではなく、DX化などで効率性を追求するのは必要**だと思います。



中神 そうですね。取引先さんとのやりとりも含めて、業務の中で普通に紙を使ったり、もくもくと転記作業をしたりするけど、DX化が進めば効率化できそうです。



鈴木 製品やモノづくりがマルチ化した際の多様なプロジェクトの日程管理を考えると、DX化は急務だと感じます。

太田 **DX化については、現場で活用している若手から積極的に提案してもらえるとありがたい。われわれも動きを促して、皆さんをしっかりとサポートします。**



新事業の具体的な取り組みについて

鈴木 そういえば社内でも、新事業など新しい動きがあることは知っています。でも何がどのように進められているのか分からず、気になります。



古郡 私もそうです。新事業で何が動いているか分かっていれば、自分に足りないポイントが明確化できるので、知りたいです。

太田 **その新事業とは、恐らく全く新しい事業領域のテーマの事**だと思います。これについては、メンバーを募り、いくつかのテーマが平行して走っています。発信が足りなかったのは反省ですね。



岩本 少し区別すると、**「新事業」は将来に向けて全く新しい領域へのチャレンジ**であり、**「新製品」の開発はFTSの強みであるエネルギー密閉容器を進化させること**です。「新製品」は、お客様の期待に幅広く、出来るだけ早く応えることが大切ですね。

中神 燃料容器の需要減、EVシフトに対して、マルチパスウェイで対応していくのは理解できましたが、流れに対応するための時間が間に合うか気になります。



中村 具体的に2030年を節目にしていると思いますが、新製品はその頃に花開いているのだろうか…。

岩本 内燃機関は、地域ごとの環境対応に必要な技術なので既存タンクの価値を高めたり、新燃料対応も間に合わせていきます。また、**液体水素タンクをモータースポーツで検証する取り組みを水素関連の仲間企業と連携して進めています**。課題は沢山あります、だからこそFTSの頑張りどころです！



太田 量産化となると、また違う技術が必要になるしね。

新しい価値創造のために今すべきこと

中神 方向が具体的に見えると、取引先にこんな技術をもっている所がある…など私も検討できることが増えそうですね。

古郡 従来のタンクで必要とされる技術とは、異なる技術も必要となるので、そんな新しい動きに対応できる人材になれるよう、関心を持って技術力を高めていきたいです。



太田 FTSはものづくりの会社で、その「もの」をとりまく環境は刻々と変化し、法規制やルール、競合関係も変わります。なので**外部にアンテナを張って、ビジネスフェアや技術の展示会など、外の空気を積極的に肌で感じて欲しい**と思います。

中神 これまでモビリティショーでは、目立つBEVばかりに目が行き、不安感が強かったけれど、見方が変わってきました。

鈴木 わたしも積極的に参加します。

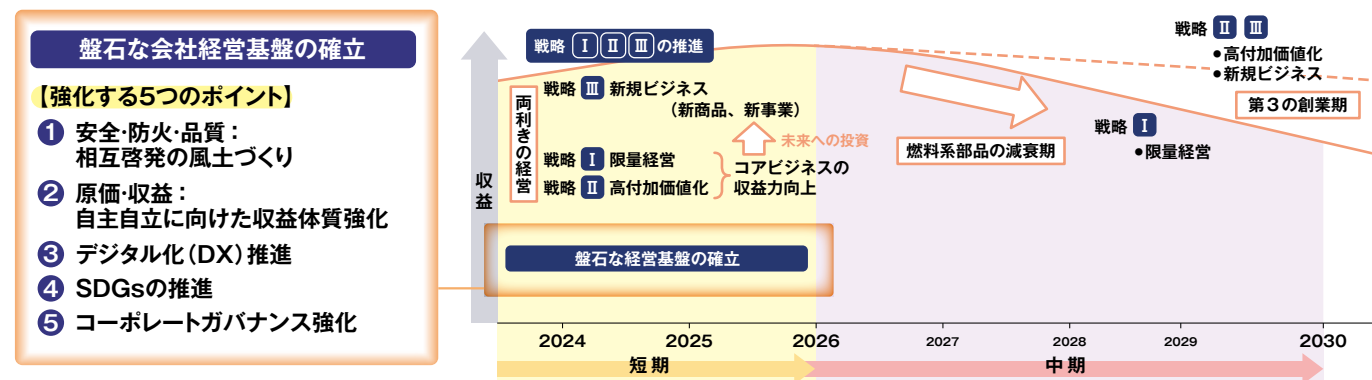
中村 新商品、新事業に対しても、まだ勉強が必要ですが、知識をどう深めて行くかが見えてきました。



岩本 **未知の世界を、既知の世界にしていこうなチャレンジ行動をどんどん応援していきますので、あらゆる方向に目を向けて新たな領域にチャレンジしていきましょう！**

盤石な会社経営基盤の確立

経営基盤強化の5つのポイント



*⑤は P37参照

① 安全・防火・品質：相互啓発の風土づくり

安全・品質担当役員 Message

TQM本部長 萩森 修

TQMの理念はお客様(社会／会社／家族／自分自身)の為に、全員参加で 絶え間なく 改善を推進する事。安全も防火も そして品質も FTSに集う全員 一人ひとりがリーダー。個々人の気づきや改善、その一つひとつが、例え些細なモノでも国内は元よりグローバルに拡散する事で、堅固確実多大な安全安心信頼へと成長を遂げます。昨日よりも今日、今日よりも明日、現状に甘んじる事なく更なる改善をめざします。

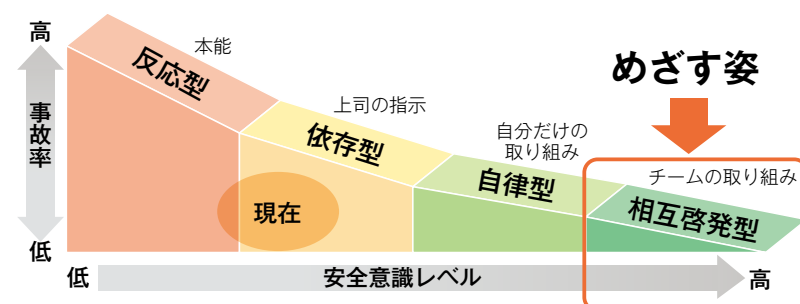
私たちのめざす姿
安全／防火：相互啓発型安全文化の構築
品質：未然防止型品質向上活動の定着



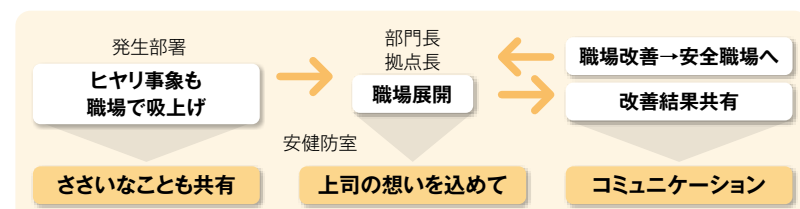
● 安全文化構築

「安全な作業、確実な作業、熟練した作業／安全な作業は作業の入り口／私たちはまずしっかりとこの入口を通ります」を念頭に、相互啓発型の安全文化の構築を推進しています。そのために、資格取得や教育機会などの学びの場を充実させ、知識・意識の向上を図ると共に、トップダウン／ボトムアップ双方の意見を尊重し、互いに思いやる風土の醸成をめざした活動を推進しています。

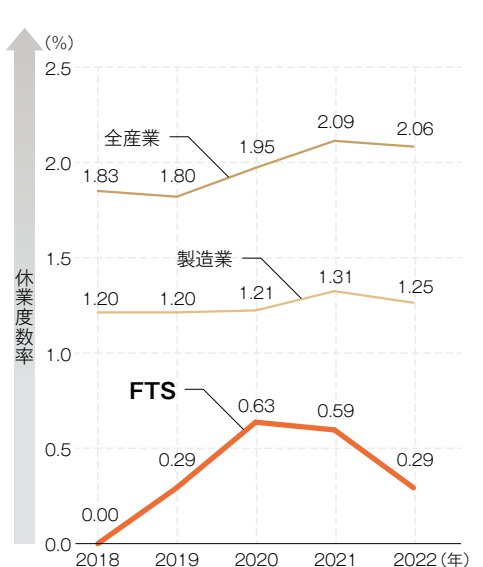
安全文化発展モデル



グローバル情報共有フロー



労働災害発生頻度(休業度数率)



出典：厚生労働省「労働災害動向調査」

● 防火活動

「火災は全てを喪失(人命、工場、会社、生産、信頼)」を念頭に、トップの率先垂範による強化活動を推進しています。

プレス・溶接・塗装・成形等の多種多様な工法・工程・工場の特徴・特質に応じた防火対策として、可燃物・源の隔離や火災リスクアセスメントの実施、展開などを行い、一人ひとりの防火意識向上と活動を風化させない取り組みを行っています。

本社工場防火コーナー



防火トップ点検



防火新聞による啓蒙活動



● 品質向上活動

お客様の安全に関わる重要保安部品の品質造り込みとその維持改善のため下記を重点に推進しています。

● フロントローディング：「開発、設計初期段階から品質を造り込む」

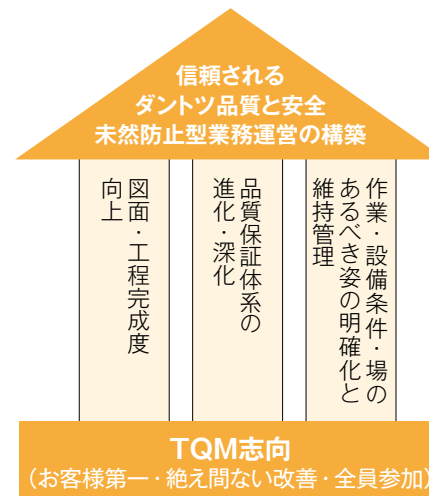
過去及び現在の号口生産課題対策と再発防止の反映、新規変化点対応を重点に施策を立案しています。

また、各部門及び前後工程の役割、期待値を明確にし、生製準における標準オペレーションを継続的に改善しています。

● 全社会議体によるトップ主導の品質向上活動(品質会議/工場品質改善委員会)

市場、顧客納入品質状況及び製造、生産技術、設計各部の品質活動を共有し、守れる/守りやすい作業改善と訓練場整備、工程内課題及び量産での設計課題の撲滅、品質課題の横展と標準化(オールグリーン活動)を推進しています。

品質の取り組み



品質向上活動の図



訓練場の整備



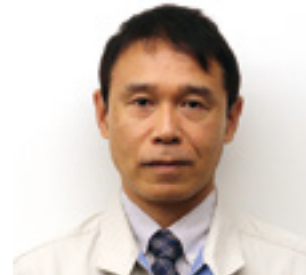
盤石な会社経営基盤の確立

② 原価・収益：自主自立に向けた体質強化

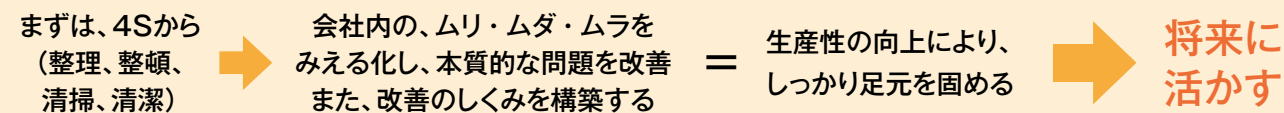
経理担当役員 Message

アドミニストレーション本部CFO 小山 秀実

収益体質強化を着実に実行し、強固な経営基盤を築くために、毎年の短期利益計画と連動した合理化活動を推進しています。費目別にWGを組織し、ムリ・ムダ・ムラを徹底的にみえる化し改善することで収益体質を強化します。今後の工場再編等の変化点から最大限の生産性向上・原価低減効果を引き出すべく、活動の枠組みも柔軟に見直していきます。



● 基本的な考え方

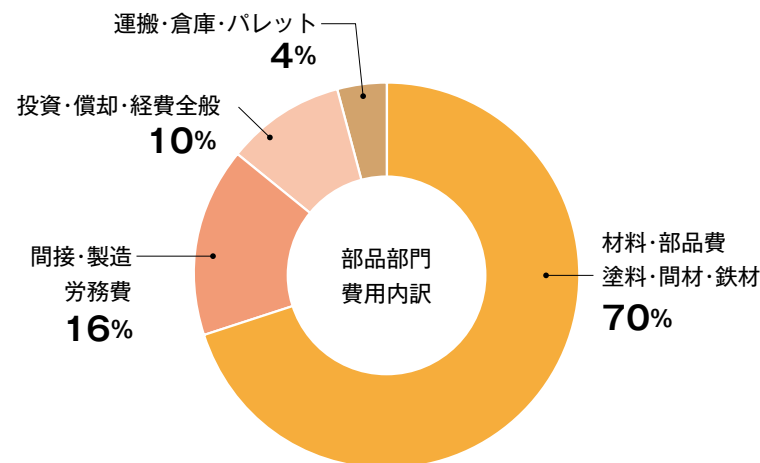


● 改善の6つの観点

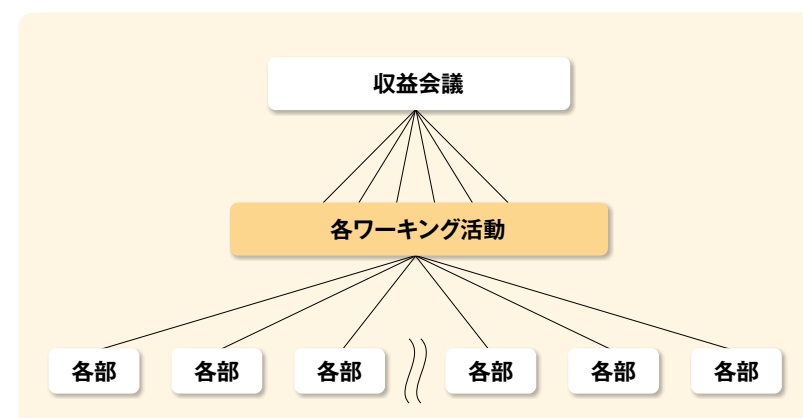
- 材料・部品費
- 副資材
- 各種ロス低減
- 労務費
- 輸送・保管倉庫
- 投資・経費最適化

*各ワーキング活動にて全社横断で推進

● FY23発生費用内訳



● 推進体制



各ワーキング活動での改善好事例を積み重ねて、全社で共有しながら今後も、FY24目標達成に向けて継続的に取り組みを行っていきます。

③ デジタル化(DX) 推進

DX推進担当役員 Message

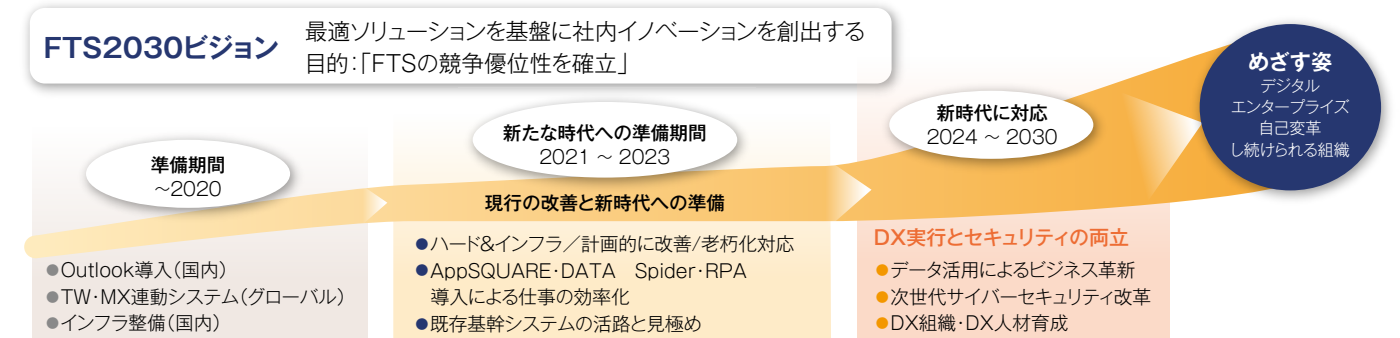
TQM副本部長 赤木 正紀

日々高度化するサイバー攻撃に対するセキュリティへの対応と社員の方々の働きやすい環境づくりを両立する為、今年から新組織を立上げてDXを推進しています。社内の様々なシステムからデータを集約しダッシュボードでみえる化して活用する【データHUBシステム】という環境を構築しました。市民開発により自分たちで必要なデータを取り出して分析し改善に繋げられるようにITリテラシーの向上、人材育成をしながら推進しています。

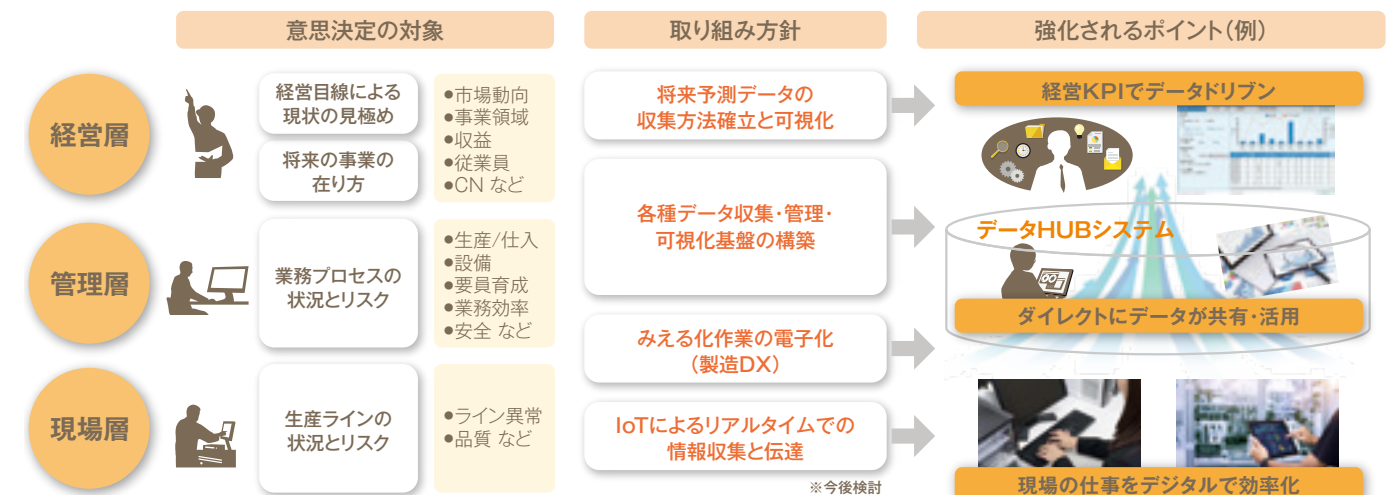


● IT中期計画(ロードマップ)

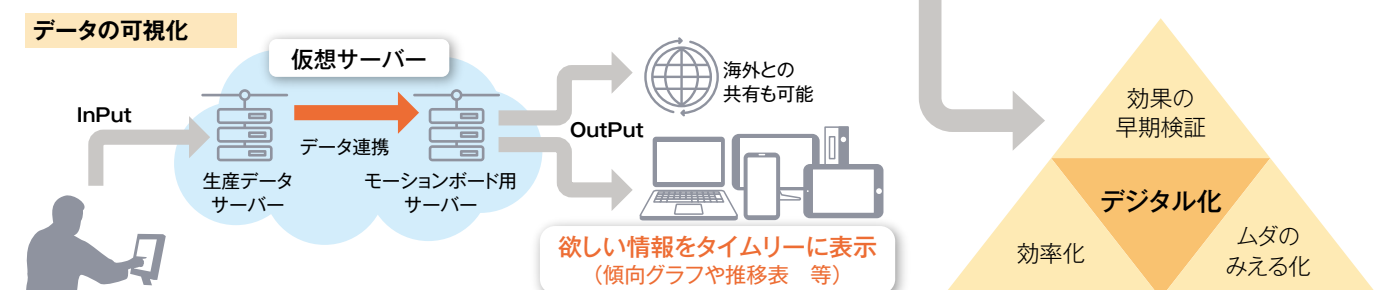
急激なビジネス領域のシフトや需要変化に対応するために基幹業務の見直し、システム先進化及び情報管理・活用基盤の整備を進めています。これにより、安心・安全品質を確保した上で、高い生産性と持続性のある事業構造を実現する事をめざします。



データHUBシステム導入 ダッシュボード活用による3層みえる化とデータドリブン



HUBシステムによりデータを活用した仕事のやり方にシフトしていく



環境への取り組み



環境担当役員 Message

モノづくり本部長 太田 一郎



私たちはさまざまな地球環境課題や社会課題の解決に向けて3つの柱を掲げて挑戦しています。具体的には①カーボンニュートラル推進 ②循環型社会の構築 ③環境意識の高い風土と人づくりです。これまで築き上げてきたモノづくりの強みを活かせる部分は更に進化させ、未知の領域については仲間づくりから始めて持続的な社会の実現をめざし環境課題解決を進めています。環境への取り組みを推進することは私たちの事業そのものの競争力強化にもつながると考えています。

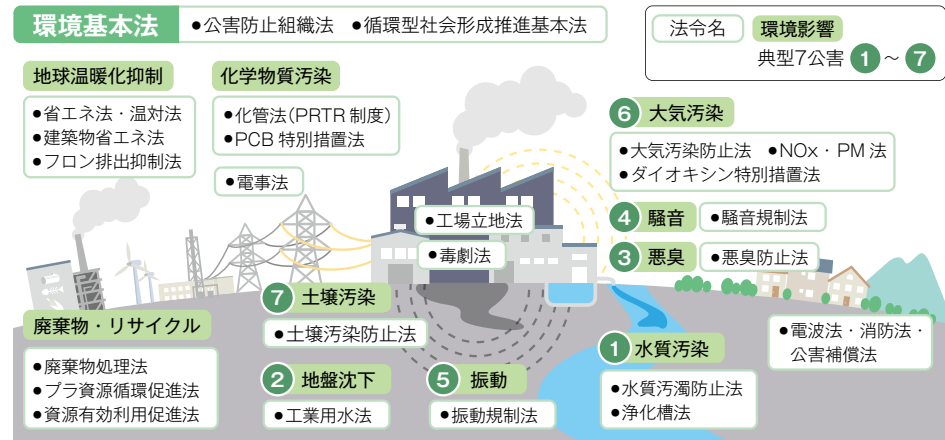
環境基本方針

基本方針

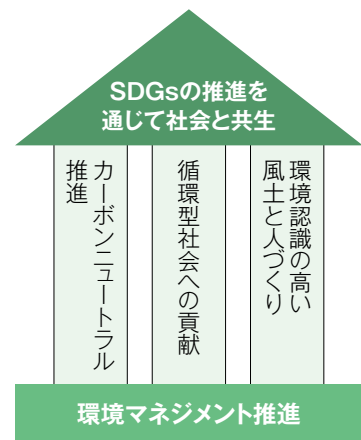
- ISO14001に準じた環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、継続的改善に努めます。
- 環境関連法律・規制・協定を順守します。
- 当社の重点取り組み課題に取り組み、具体的な目標を掲げて達成をめざします。
 - カーボンニュートラル及び省資源・省エネルギーの推進
 - 地球環境負荷物質の削減
 - 3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進
 - 輸送効率向上によるCO₂削減と物流梱包材使用量低減
 - 環境に配慮した製品開発
 - 環境意識の高い風土と人づくりの推進その他、詳細はHP参照▼



FTSを取り巻く環境法令



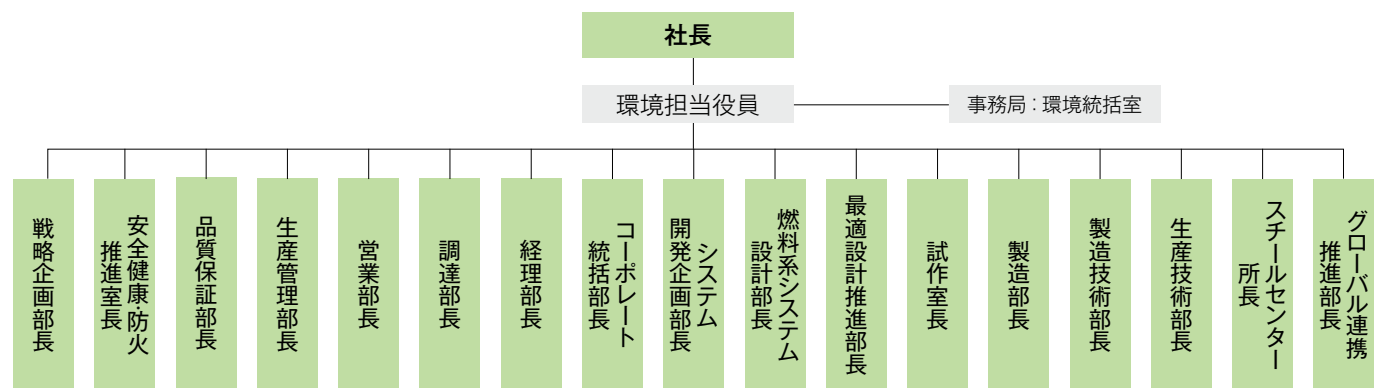
FTSの環境取り組み



環境マネジメント体制

四半期毎に環境委員会を開催し、年度方針の進捗及び結果の共有、課題解決のための方向づけ、戦略策定、意思決定などを行っています。

環境マネジメント体制図



環境中長期目標

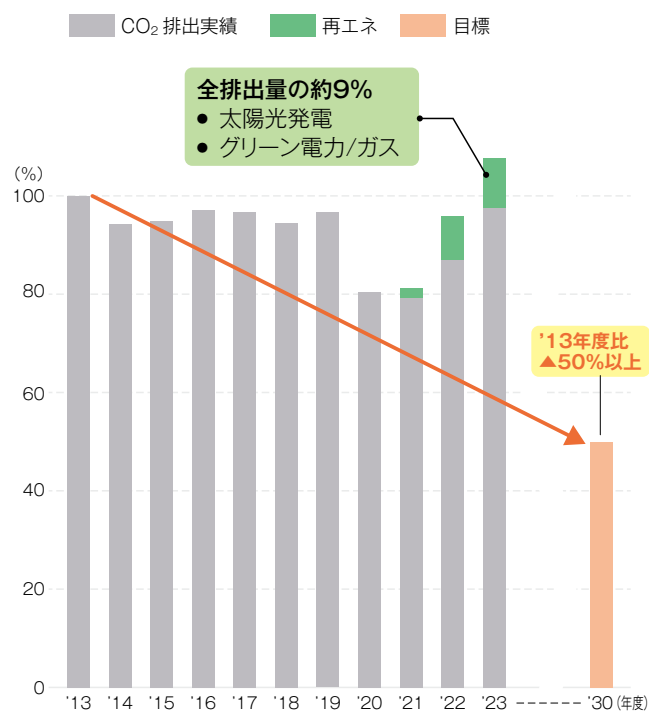
中期目標を定めて環境負荷の削減に取り組み、地球温暖化防止やクリーンな地球環境に貢献します。

SDGsの推進を通じて社会と共生							
カーボンニュートラル推進	技術革新	・小型化・薄肉化・環境負荷の少ない製品設計・環境貢献新開発・水素活用					
	生技開発	エネルギーの見える化・ヒートポンプ・高効率機器の優先採用・省エネラインの構築	DXツール活用による生準L/T短縮				
	日常改善・再エネ	・日常改善+6つの心得・再エネの最適調達					
循環型社会への貢献	水・化学物質の削減						
	環境負荷物質の削減と資源の有効活用						
		生物多様性への貢献					
環境意識の高い風土と人づくり	CO ₂ 排出量把握	CO ₂ 排出量のグローバル見える化			IoTによる見える化		
	教育体系の更新と教育	環境検定の推進	日常的考動習慣づけ		相互啓発型		
	依存型		独立型				
環境マネジメント推進	環境委員会 EMSしくみの整備						
		非財務環境情報開示・グローバルで共有					
		2022実績	2023実績	2024	2025	2026	2030
① 異常・苦情		0件	0件	0件	0件	0件	0件
② 環境法令遵守		0件	0件	0件	0件	0件	0件
③ 環境認識の高い人づくり(グローバル)		基幹職・GL以上	基幹職・GL以上	基幹職・GL以上・ローカル担当者	係長・担当員・ローカル担当者	係長・担当員・ローカル担当者	相互啓発型
④ カーボンニュートラルCO ₂ 排出量	国内総量ton(2013年度比)	▲20%	+8%	(目標)▲32%	▲35%	▲38%	▲50%
	原単位(前年度比)	▲2.5%	▲2.2%	▲1%	▲1%	▲1%	▲1%
⑤ 産業廃棄物排出量	総量(前年度目標比)▲4%	+14%	+6%	▲4%	▲4%	▲4%	▲4%
	廃プラ(前年度目標比)▲5%	▲0.02%	▲13%	▲5%	▲5%	▲5%	▲5%
⑥ 水使用量	原単位(前年度実績比)▲1%	▲4%	▲13%	▲1%	▲1%	▲1%	▲1%
⑦ 特定化学物質質量(前年度実績比)▲1%		▲18%	▲4%	▲1%	▲1%	▲1%	▲1%

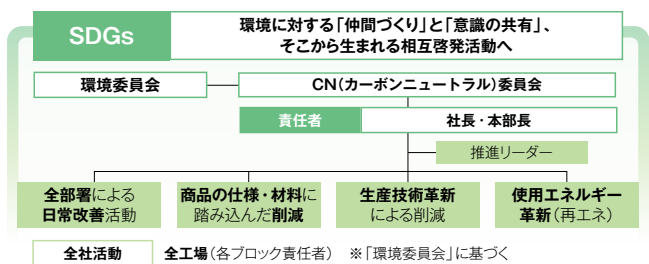
カーボンニュートラル推進

2030年にCO₂排出量50%削減(13年比)の目標を掲げ、環境組織体制整備及びCN委員会を設置し、全社一丸となり、日常改善・材料/構造・生技革新・再エネ活用の4チーム編成でCO₂削減に取り組んでいます。

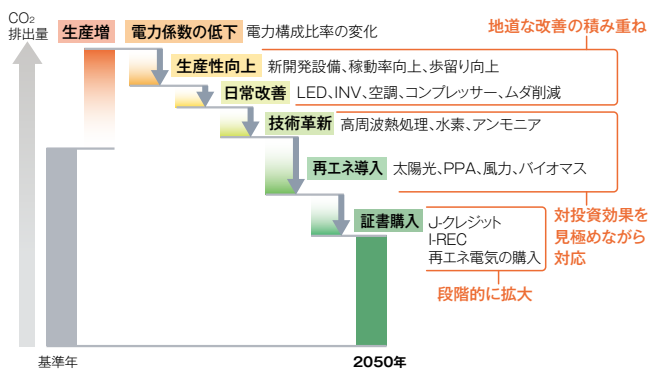
脱炭素社会の構築



「CN委員会」活動メンバー



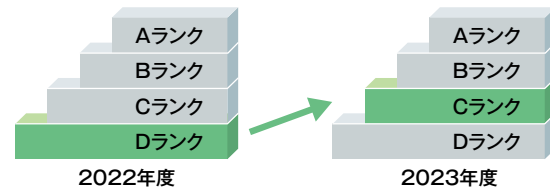
CO₂削減の取り組み



カーボンニュートラル推進

FY23外部評価

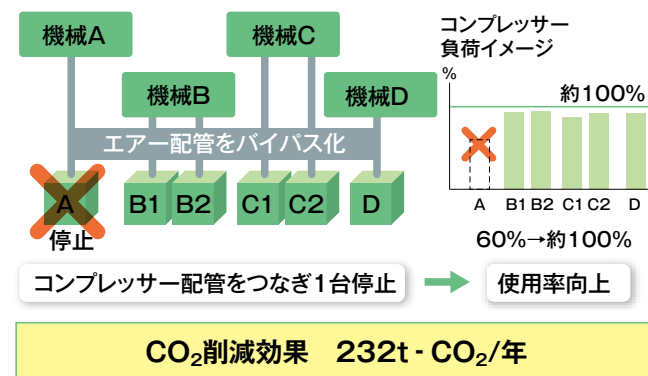
CDP評価：気候変動



改善活動事例

動力供給設備の統廃合による低減

生産ラインや動力供給設備の統廃合により、省エネルギー化とCO₂排出量低減に取り組んでいます。



再生可能エネルギーの活用

太陽光パネルを3工場に、風力発電を本社に設置し、2021年より年間電力使用量のおよそ3%を賄っています。また、太陽光パネルは子会社であるFTS九州や一部の海外子会社でも採用しています。

太陽光発電導入



循環型社会の構築

取り組みの考え方

循環型社会への貢献をめざし活動しています。

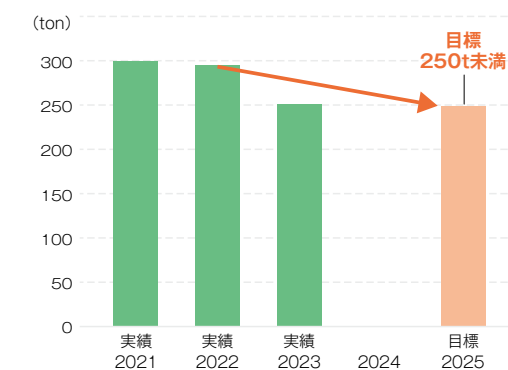
① 循環型社会の基本理念を理解		② 事業活動における排出物3Rの推進		③ 環境負荷物質の削減と資源の有効活用			
基盤方針【環境】		2022環境方針		2022	2023	2024	2025
循環型社会への貢献	①循環型社会の意義と基本理念の理解	環境月間（6月）等で周知展開		環境月報 環境委員会のタイミングで循環型社会について発信			
				3Rの意識	循環型社会への配慮	循環型社会へ貢献	
	②事業活動における排出物の3Rの推進	①産業廃棄物 ②水使用量 ③排出物と処理プロセスの把握		プラ資源循環促進法の遵守（250t未満の達成）			
企業活動において資源の有効活用を図り持続可能な社会に貢献				水使用の削減	水使用の循環活動	更なる水使用の削減	
	③環境負荷物質（PRTR制度）の削減と資源の有効活用	環境に影響する化学物質使用量の低減		実態把握	化管法への対応		
				環境負荷物質を含まない材料調査と転換			

3R推進

廃プラ類の3R活動

各工場で、産業廃棄物として排出していた廃プラ類を分別し売却することで、売却益を得ながら、資源として再利用する活動を進めています。

中期プラスチック廃却目標



改善事例 分別による資源活用(リサイクル)

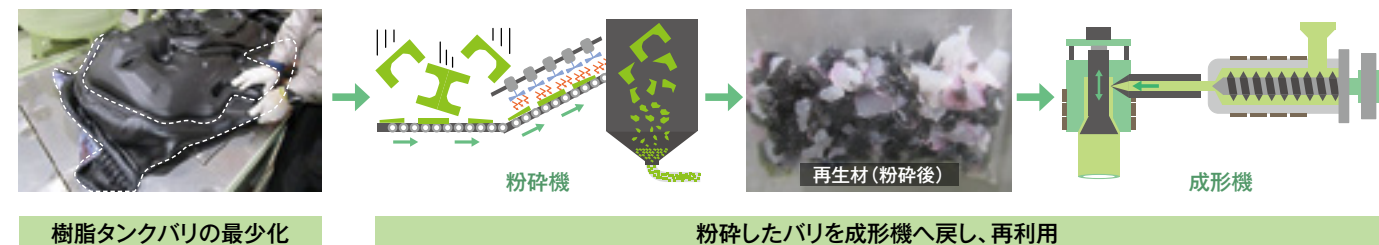
比重分別(水槽)や分別一覧表による明示により、一つ一つ分別を精査する事で、単純廃却から最大限のリサイクル活用をしています。

混在プラスチックの分別



改善事例 樹脂タンク廃材の活用(バリのリデュース、リユース)

成形過程で発生する樹脂タンクのバリを最小化、且つ、発生したバリを全て再生材として100%再利用しています。



環境意識の高い風土と人づくり

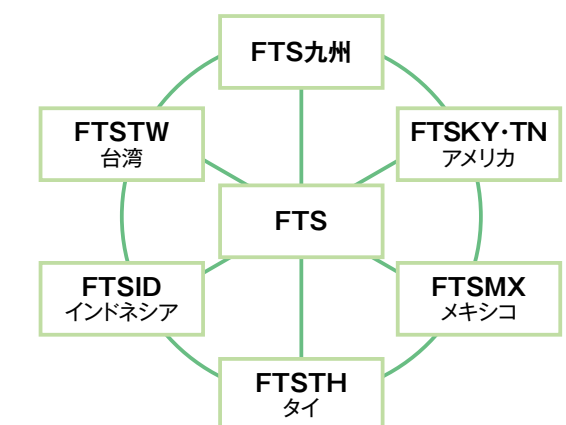
毎年6月を環境月間と定めるとともに、定期的に環境KPI等を共有する場を設け、環境意識向上に向けて継続的な情報発信を行っています。

環境月間を通じた啓蒙・啓発活動



グローバル連携体制構築

カーボンニュートラル非財務情報開示に向けた、グローバル活動のキックオフ会議を2024年1月に日本で開催しました。各拠点担当者と初顔合わせからコミュニケーションを深め、今後の情報共有や連携を誓い合いました。



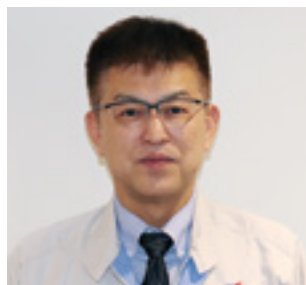
社会の一員としての取り組み



人事・総務担当役員 Message

アドミニストレーション本部長 中村 正

事業拡大や収益確保だけでなく、地域・社会と密接な関係を構築して「企業の社会的責務」を果たしていくよう努力を続けます。FTSの事業活動、社内外に関わる取り組み内容をより多くの皆さまに知っていただくため、分かりやすく正しい情報発信を行い、FTSに関心を持っていただけるようにしていきます。様々なステークホルダーと対話させていただき、「選ばれ続ける会社」になるため、地域・社会に求められることを一つひとつ受け止め丁寧に応えてまいります。

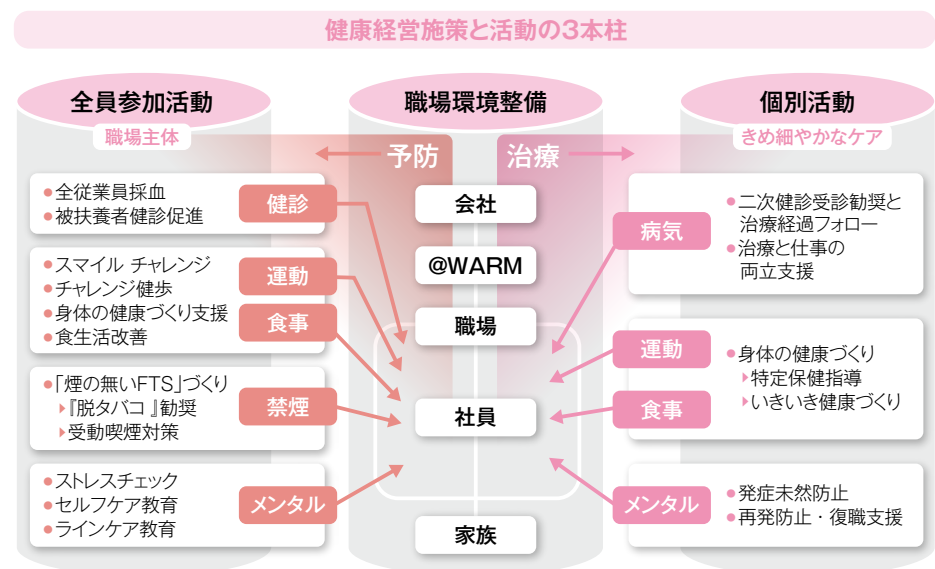


人権の尊重

「世界人権宣言」をはじめとする国際規範を踏まえ、行動基準となる「FTS CSRガイド」を定め、人格や人間性の尊重、強制労働や児童労働の禁止を明言しています。従業員、お客様、取引先など事業活動に関わる全ての人々の人権や人格・個性を尊重し差別的行為を行いません。また、社内においては労使協調のもとで常に健全で働きやすい職場づくりを心掛けます。

健康経営の推進

「健康経営」の取り組みスローガンである「元気な会社、元気な社員、元気な家族」の実現に向け、3本柱（職場主体の全員参加活動、職場環境整備、社員への個別ケア活動）を掲げて、社員の幸福実現の源泉である心身の健康維持促進に努めています。



● 社員の「身体とこころの健康づくり」に向けた取り組み

2017年4月に経営トップによる「FTS 健康宣言」を発表し、健康の保持・増進に向けた健康経営の活動拠点として、本社に@WARMを設置し、保健師による健康に関する教育や社員のメンタルケアなど、社員に寄り添った対応を行っています。また、生活習慣病予防のために運動・食事習慣改善だけでなく、毎年全社でウォーキングイベントを開催すると共に、健康促進など予防中心の心身両面の健康施策の充実を図っています。これらが評価され「健康経営優良法人」や、「スポーツエールカンパニー2024+ (プラス)」に認定して頂きました。「健康第一」をモットーに、更なる健康経営の推進に努めていきます。



@WARMとは？



「ホワイト500」に6年連続認定



「スポーツエールカンパニー2024+ (プラス)」に認定



「Sport in Life 2023賞」受賞

● 禁煙の取り組み

2019年より地道に取り組んできた『脱タバコ!作戦』(禁煙サポート)活動の成果が認められ、トヨタ関連部品健康保険組合禁煙の部『取り組み優良賞』を2年連続で受賞しました。この「禁煙の部」は、健保に登録している167事業所のうち10事業所が受賞し、500名以上規模の事業所では当社が唯一選出されました。今後も「煙の無いFTS」をめざし、取り組みを継続して参ります。



DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の取り組み

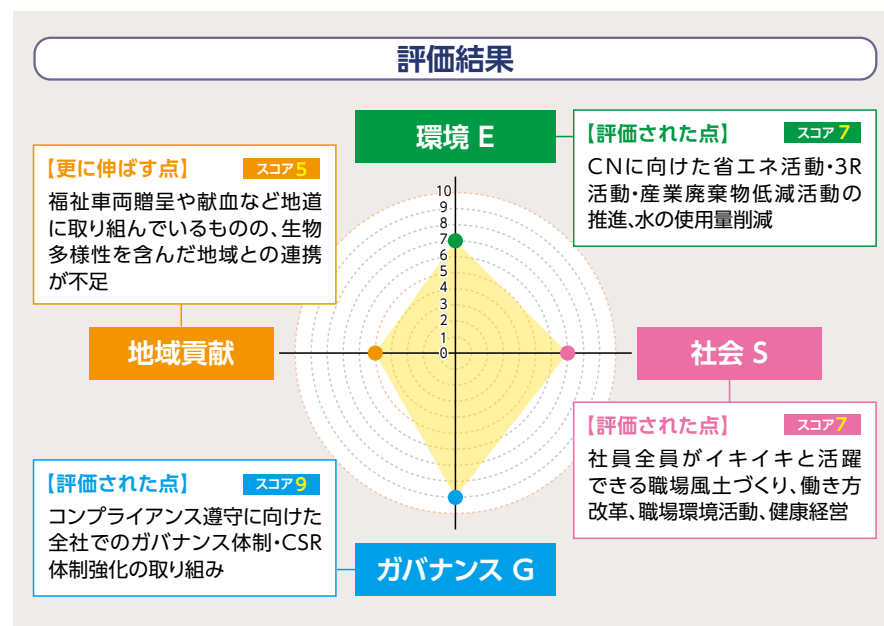
● 多様性の尊重

DE&Iを重要な経営の考え方の一つとして位置づけ、公平性を考慮すると共に、社員の個性・多様性を尊重したハラスメントのない風通しの良い職場づくりを推進します。また、社員一人ひとりに、自身の創意・熱意及び能力に応じた活躍の機会や場を提供する事で全員が成長し、活躍できる風土をめざします。

SDGs取り組み状況

『豊田市SDGs認証制度』『シルバー認証』を取得

第1回『豊田市SDGs認証制度』において、「シルバー認証」を取得しました。これまで推進してきた、社員がイキイキと活躍する働き方及び風土改革、ガバナンス強化推進及び省エネ、カーボンニュートラルなどの環境面の取り組みを評価して頂きました。今後も地域社会に貢献し、社会から信頼される企業としての責務を果たしていきます。



シルバー認証受賞 '23.10.12



地元ケーブルTV番組にて紹介されました。

社会の一員としての取り組み



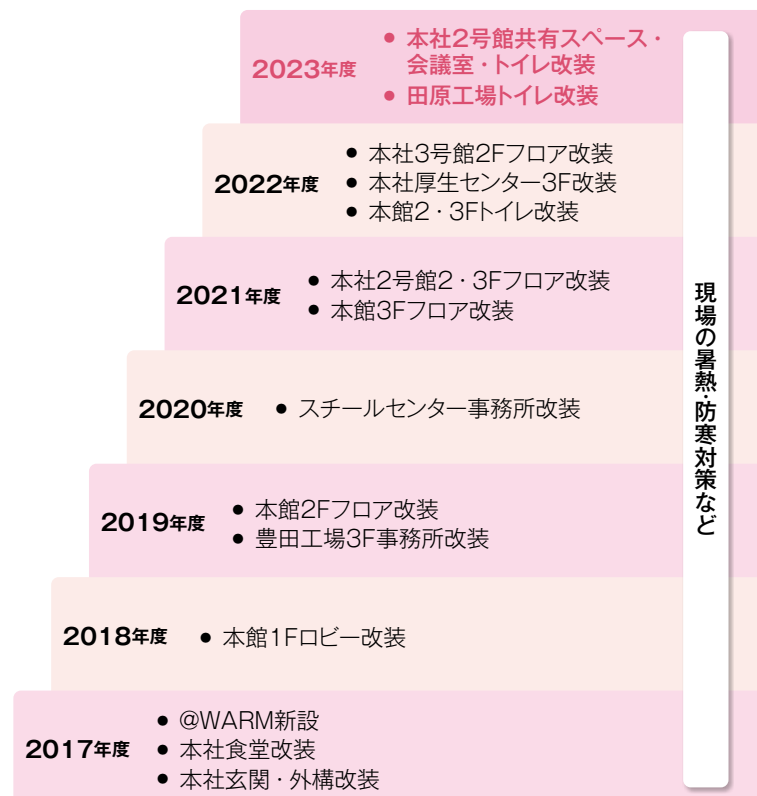
社員がイキイキと活躍できる企業風土と職場づくり

労使相互信頼のもと、社員がイキイキと活躍できる風通しの良い職場づくり及び良好なコミュニケーションを促進する環境整備の取り組みを評価して頂き、『豊田市はたらく人がイキイキ輝く事業所』表彰制度において、昨年度の「イキイキ大賞」に続き、「ベストフォーカス賞(職場風土)」を受賞しました。



ベストフォーカス賞受賞
職場風土'23.12.13

● 中期計画に基づく職場環境改善



● 主な職場環境改善

オフィス、社内共有スペース

職場の枠組みを超えて他部門との幅広い交流を可能とする厚生センター「コミリア*」、落ち着けるカフェスペースやフリーアドレス化を採用した2号館(技術系エリア)など、コミュニケーションを活性化させるための様々な改善を中長期計画に基づき実施しています。



2号館【技術系カフェスペース】



厚生センター【コミリア】 *コミュニケーションエリアの略

暑熱・防寒対策

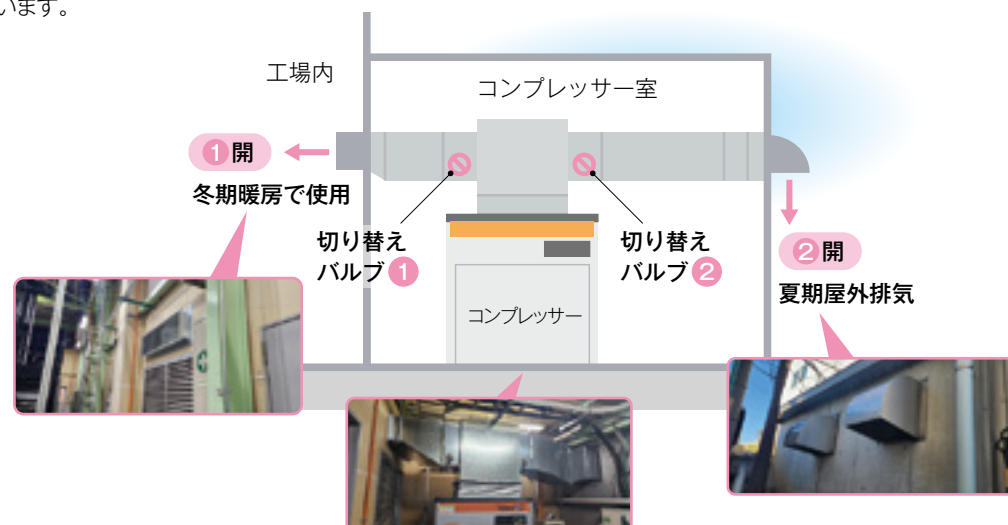
(夏) 遮熱シート施工

壁面と天井に遮熱シートを貼ることにより、屋内温度の上昇を15℃以上抑えています。



(冬) 廃熱利用による暖房

コンプレッサー廃熱(約30℃)を工場内休憩所等の暖房に利用しています。



女性やシニアにやさしいラインづくり

女性やシニアが安心感を持って働くことのできる作業環境整備を推進しています。



部品置き場の
距離見直し

女性にやさしい
バルancer

密栓作業の
固さ改善



作業者に合った作業高さの実現



作業高さに表層的(年齢・性別・体格・人種・国籍・障がい者)な多様性を持たせることで、作業がしやすくなり品質向上にも貢献

● 『あいち女性輝きカンパニー』優秀賞を受賞

女性の活躍をサポートするために仕事と育児の両立支援制度や特別休暇の拡充、パパ育休促進などを労使一体となって実施してきました。

これらの積極的な活動が評価され、『あいち女性輝きカンパニー』優良企業表彰において初となる「優秀賞」を頂きました。



あいち女性の活躍促進応援Webサイト(愛知県) YouTube上でFTSを紹介／公開

あいち女性輝きカンパニーインタビュー

株式会社FTS (豊田市・製造業)

「One for All, All for One」を掲げ、誰もが働きやすい環境をめざす



愛知県男女共同参画推進課

YouTube 9分51秒



育児・介護支援制度の整備

	育児支援 []内は法定基準	介護支援 []内は法定基準
制度整備	- 育児休業(子が満2歳まで[満1歳まで]) - 産後パパ育休制度(8週間取得可能[4週間まで]) - 育児短時間勤務(小学校3年生まで[満3歳まで]) - 不妊治療、ワクチン接種特別休暇	- 介護休業(通算1年取得可能[93日まで]) - 介護短時間勤務 - 介護休暇
福利厚生	- 育児施設利用補助 - 育児用品購入・レンタル費用補助など	- 介護施設利用補助 - 介護用品購入・レンタル費用補助など

社会の一員としての取り組み



● 「やりがい・働きがい」の向上をめざした取り組み

マネジメント教育

新任管理職を対象とした、外部機関によるマネジメント研修を新たに実施しました。研修では、メンバーのモチベーションを高め、成果につなげる仕事のマネジメントやハラスメントのない職場をつくるためのコミュニケーションなどについて学びました。今後は、階層別教育プログラムに織り込み、継続的に教育を実施していきます。

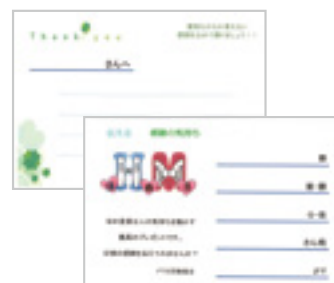


教育受講者
計196人

労働組合による職場風土づくり



労働組合では「こねくトーク」や「ほめ活」、「ゆうゆうトーク」などにより、組合員の横の繋がりがりや職場の仲間との関係性を深める活動を進めています。また、職場の困り事を吸上げ、労使間で課題を共有し、改善に取り組んでいます。



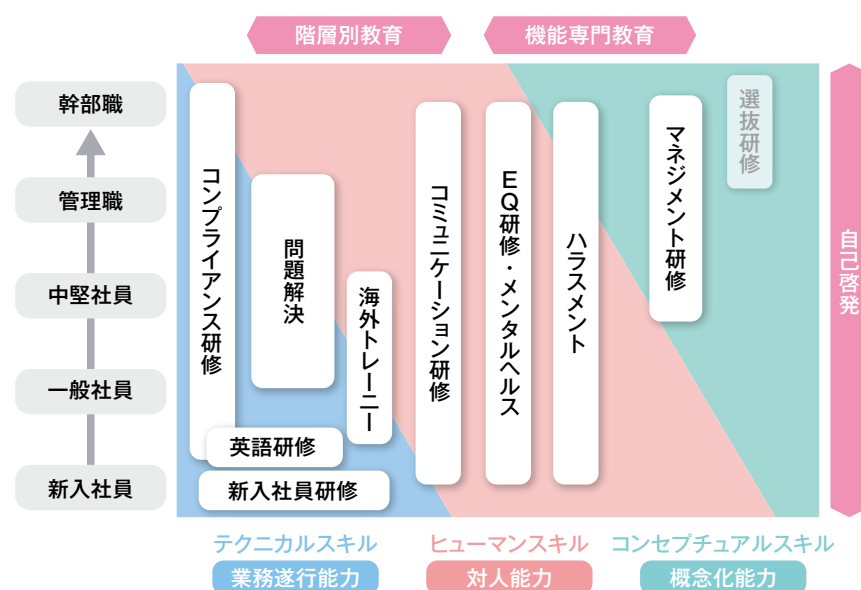
人材育成

当社では、「社員の幸福」をポリシーに掲げて、一人ひとりがFTSの価値観を共有し、創意とチャレンジ精神のもとでオーナーシップを持ち、自律的な行動により、成果を出す人材の育成をめざして取り組んでいます。

● 主な取り組み

- 階層別教育、機能専門教育の拡充
- e-ラーニング環境整備
- 自己啓発支援
- コミュニケーション研修、EQ研修
- 社外研修強化の実施など

また、キャリアデザイン面談や若手の英語力強化、海外トレーニーにも力を入れています。



ビジネスパートナー

● 基本的な考え方

仕入先の皆様と連携し、お客様第一の活動を推進しています。また、「FTS経営理念」実現をめざして、我々が果たすべき社会的責任について、「グリーン調達ガイドライン」及び「仕入先CSRガイドライン」としてまとめました。さらに、「パートナーシップ構築宣言」を行い、仕入先の皆様とのコミュニケーションを大切にし、共存共栄を進めると共に、責任ある企業活動を推進し続けます。



グリーン調達
ガイドライン▼



仕入先CSR
ガイドライン▼



パートナーシップ
構築宣言▼



● ビジネスパートナーとの共存共栄

仕入先の困り事を聞き、交流を深め、相互啓発による共存共栄と持続的成長を目的とした「寄り添い活動」を行っています。主な取り組みとしては、生産性向上、原価低減、人材育成などについて、現地・現物での改善活動を行い、仕入先の体質強化、競争力向上を支援しています。



社会貢献



献血実施

愛知県赤十字血液センターの協力のもと、本社にて献血活動を実施しました。役員及び本社・豊田工場に勤務する多くの事技系社員が積極的に参加しました。



福祉施設へ車両贈呈

創立80周年記念の一環として、地域社会に感謝し貢献するというFTSポリシーに基づき、豊田市で障害者支援施設を営む、『社会福祉法人とよた光の里』へ福祉車両1台を寄贈しました。また、施設周辺の清掃活動も行いました。職員、入所者の方々から温かい感謝の言葉を頂きました。

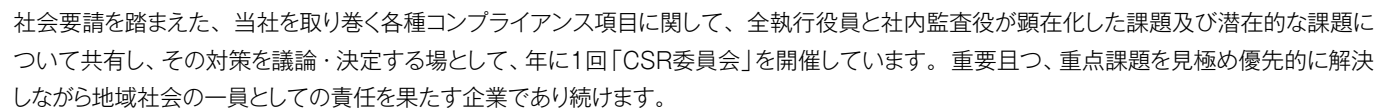


令和6年能登半島地震の復興支援

1月に発生した石川県能登半島地震の復興支援として、義援金の寄付を行いました。また、FTSファミリーフェスタ(社員とそのご家族への日頃の感謝イベント)にて、北陸物産展及びキッチンカーを企画し、その売り上げの一部を寄付しました。

また、国内外・国際的な法令並びにそれらの精神を遵守し、誠意を尽くし誠実な事業活動を行うと共に、私たちは、持続可能な発展のために全てのステークホルダーに信頼される経営に努め、オープンで公正なコミュニケーションを通じて健全な関係の維持・発展に努めます。

持続的な成長を支えるために各国、地域社会及びお客様などのステークホルダーの声に対して、適時に公正且つ、透明性のある経営判断を行います。また、その判断を常にチェックできるガバナンス体制を構築します。



The diagram illustrates the organizational structure and the PDCA cycle for the CSR Promotion Group. The organizational chart shows a hierarchy starting with the President (社長) at the top, who oversees the Chairman of the Board of Directors (議長) and the Chairman of the Administrative Department (アドミニストレーション本部長). The Chairman of the Administrative Department oversees the Executive Officer (執行役員). The Chairman of the Board of Directors oversees the Board of Directors (監査役監査室). The Board of Directors oversees the General Affairs Department (総務室). The General Affairs Department oversees the CSR Promotion Group (CSR推進G). The CSR Promotion Group oversees the various departments (各本部・部). The PDCA cycle is shown as a circular flow with four nodes: P (Plan), D (Do), C (Check), and A (Act).

社長

議長
アドミニストレーション
本部長

執行役員

監査役
監査室

総務室
CSR推進G

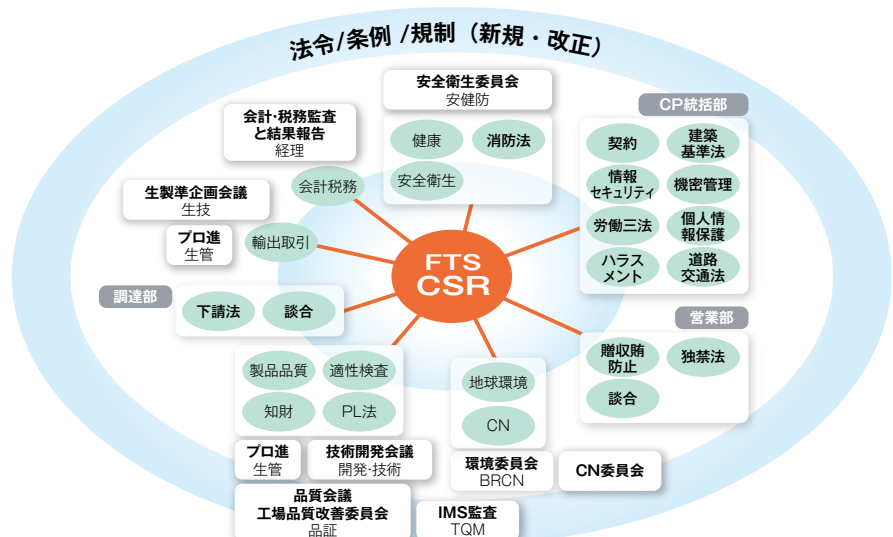
各本部・部

課題共有と共通認識
アクションの方向付け

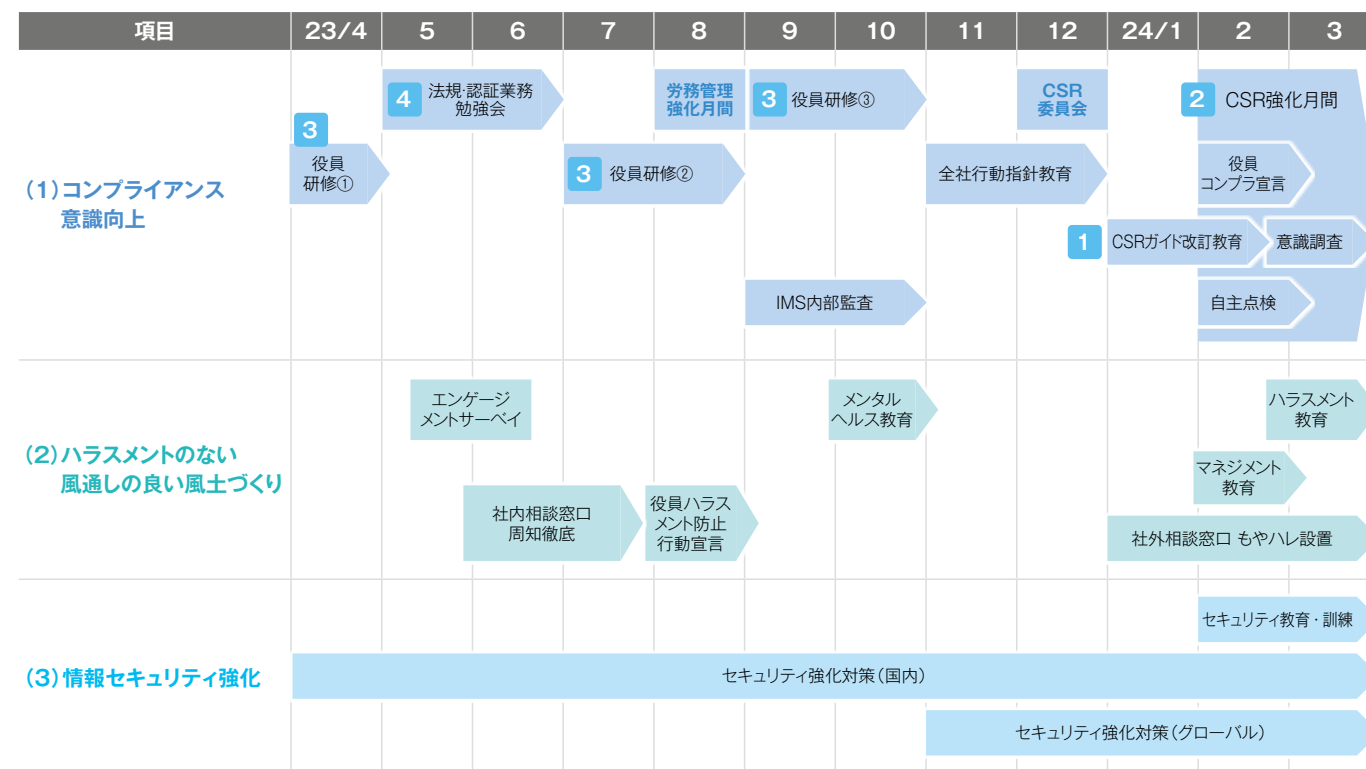
P D
A C

〈各部日常マネジメント〉+〈定期監査〉

- 1) しくみ造り、見直し
- 2) 知識向上、最新情報入手・対応
- 3) 意識付けと予防処置
(全社への牽制：案内・確認、フォローなど)



(1)コンプライアンス意識向上 (2)ハラスメントのない風通しの良い職場風土づくり (3)情報セキュリティ強化
を重点に様々な角度から対策を実施しています。



「行動倫理ガイド」を「FTS CSRガイド」として刷新し、人権やハラスメント、カーボンニュートラルなどの項目を見直しました。オンライン勉強会や新入社員研修にも取り入れ、繰り返し浸透を図っています。



22年度より「機密管理強化月間」を「CSR強化月間」と変更し、期間を2ヶ月間に延長した活動に見直しました。

一人ひとりの気付きによる行動変革を促すため、当社を取り巻くコンプライアンスの知識を深める教育及び役員自らの行動宣言や社員へのコンプライアンスアンケートによる意識向上を図っています。

また、今年度は活動の一部をグローバル拠点へ展開するなど、活動範囲を拡大しました。

毎年2月～3月はCSR強化月間です！

昨年大盛況に見舞い、行きた「CSR強化月間」を実施します。

皆さん一人ひとりの更なる知識・意識向上、
 気持ちと行動変革の機会と捉えて活動下さい。

＜CSR強化月間の実施事項＞

① CSR強化月間 CSR強化月間 役員・社員・学生・教職員 全員でCSR強化月間 活動を実施する	② CSR強化月間 CSR強化月間 役員・社員・学生・教職員 全員でCSR強化月間 活動を実施する
③ CSR強化月間 CSR強化月間 役員・社員・学生・教職員 全員でCSR強化月間 活動を実施する	④ CSR強化月間 CSR強化月間 役員・社員・学生・教職員 全員でCSR強化月間 活動を実施する

2024年「投資コンプライアンス行動宣言」

代表取締役社長
加藤 隆志

投資活動の発展と利益の向上に努めます。同時に、社会貢献活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。また、投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。また、投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。

「投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。」

投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。
投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。
投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。
投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。
投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。	投資活動を通じて、社会の発展と持続可能な社会の実現に貢献します。

3 役員研修会の実施



世間で多発する不正情報を踏まえ、CSR/ESG/SDGsなどの体系的理解やサステナビリティ課題に関して、外部講師を招いたCSR役員研修を3回実施しました。

4 法規・認証業務勉強会の実施

評価・認証業務の正しい理解を目的として、役員以下、関係者を対象に、法規・認証業務勉強会を実施しました。加えて、eラーニング教育の実施及び定期的な法規認証の啓蒙を行い知識、意識向上に努めています。



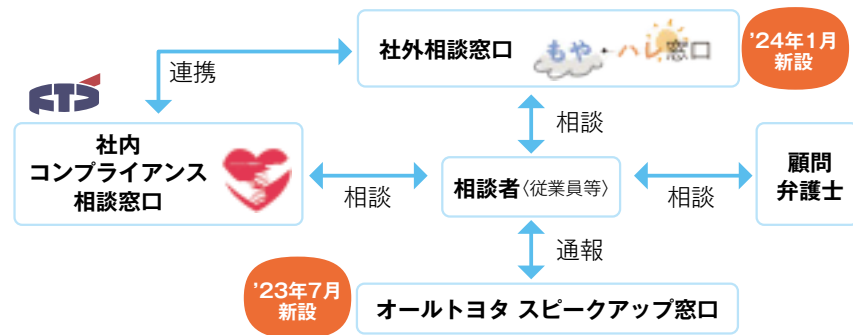
教育資料

相談窓口の拡充と啓発活動

社員がより一層安心して相談できるように、社内コンプライアンス相談窓口の認知度向上を図るだけでなく、更に、社外相談窓口として「もや・ハレ窓口」を設置しました。これにより、前年比3倍となる相談が寄せられるようになりました。

水面下に潜む従業員の困り事を吸い上げ、早期発見、早期解決に努め、より良い会社風土づくりを進めて行きます。

FTSの相談体制



告知ポスター掲示



PCに明示貼付



コンプライアンス通信発信による啓蒙・啓発

今年度より、定期的に全従業員に向けて、「コンプライアンス通信」の配信を始めました。ハラスメントや機密管理、不正、法改正情報といった幅広い内容を発信し、社員のコンプライアンスに対する知識、意識向上と行動変容を促しています。



リスクマネジメント

● 事業継続計画 (BCP) の取り組み

災害時には従業員などの「人命第一」を最優先し、「地域の早期復旧支援」、「自社の業務・生産復旧」と優先順位を付けた行動を行います。その為に、BCPを策定し、各エリア、職場毎に防災隊を組織し、初動体制を構築しています。また、耐震などの環境整備や備蓄などの整備を進め、定期訓練を通じて、実効性の向上に努めています。

BCP体制

1 人命第一

防災組織を中心に安全・安心でより確実な避難が出来る体制と有事に動ける訓練の実施

2 地域の早期復旧

地域・自治体と連携し、早期復旧と支援

3 自社の業務・生産復旧

災害に応じて各機能が主体的に責任範囲の対応を行い早期生産復旧

推進体制

会社

全社災害対策本部

全社防災体制統括、有事における社内外情報集約、対応方針決定

拠点

各ブロック防災隊本部

ブロック内統治、安否・被害情報集約、帰宅困難者対応、救急所運営など

職場

各ブロック防災隊

職場メンバーの避難誘導、傷病者の応急処置、初期消火など

● 各種訓練

避難訓練



有事を想定し、けが人の運搬、火元確認及び火災消火なども踏まえた訓練を実施。一人ひとりが、慌てず速やかに行動できる事をめざして課題抽出と対策を継続的にを行っています。

応急救護訓練



各拠点の所轄消防署から講師をお招きし、救命措置及び応急的な手当方法を実践的に学ぶ応急救護訓練を年2回実施しています。訓練では、止血方法などに加えて、心肺蘇生法・AED使用方法を学びました。

ドローン免許取得&訓練



ドローン免許取得23年度：2名
災害発生時に、敷地や建物の被害状況を迅速に確認するためドローンの活用を進めています。今後も徐々に免許取得者を増やしていく予定です。

● 情報セキュリティ強化

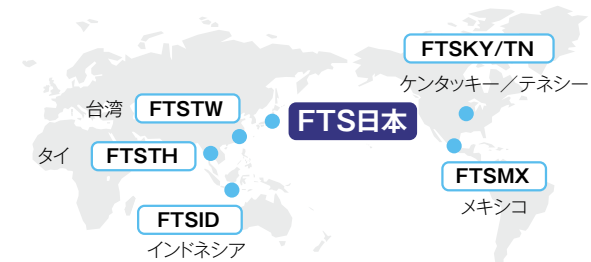
近年のサイバー攻撃による情報漏洩の被害やリスクが増大する中、情報セキュリティの確保は、全てのステークホルダーの皆様との信頼関係を支えるための重要な経営課題と認識しています。

当社では、グローバルでの情報セキュリティ強化を重点に取り組み、且つ、ITリテラシーの高い人材を育成するための教育・訓練及び啓蒙活動を継続的に実施しています。

主な取り組み

- セキュリティツール、サービス導入
多要素認証などのハード/ソフト対策
- 教育・訓練、啓蒙・啓発活動
- 組織体制、インシデント対応見直し
- 管理のしくみ見直し

FTSグローバル拠点



FTS日本 FTSグローバルIT標準策定 必須基準/現地ユニーク

共有 連携

FTS各拠点 拠点長、キーマン

FTSの概要

FTS非財務データ FY23年実績

環境

CO₂排出量



30,465 t

※内、再エネ相殺分：2,873 t

産業廃棄物総排出量



870 t

水使用量



276 km³

ガバナンス

取締役



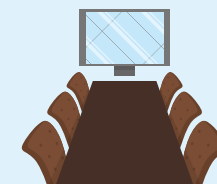
7名

監査役(社外含む)



2名

取締役会の開催回数



14回

社内外スピークアップ
相談件数



46件

社会

従業員数



1,447人

社員の平均年齢



40.9歳

社員の平均勤続年数



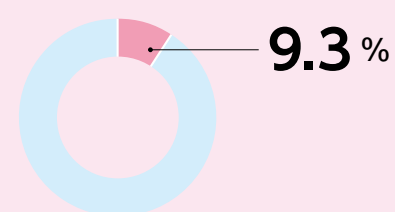
17.6年

障がい者雇用率



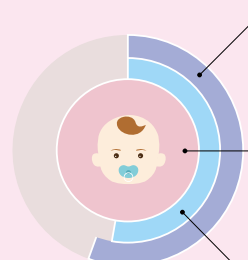
2.4%

女性従業員比



9.3%

育児休業取得率



全体 55.6%

女性 100%

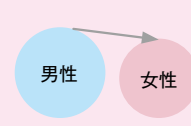
男性 52.9%

女性管理職比率



0.21%

男女賃金差異(比率)



70.5%

有給休暇取得率



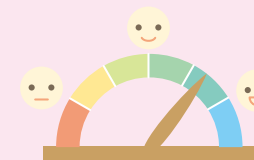
91.2%

平均残業時間



20.7^H / 月

エンゲージメント
サーベイスコア



偏差値
39.4

アブセンティーズム

※こころと身体の要因別休職日数を、
年間一人当たり平均日数で測定

こころ 3.7日

身体 0.7日



プレゼンティーズム

※体調に問題なく仕事に集中で
きる状態を100%とした場合
に対する、自己評価の平均値

77.1%



重大災害件数

0件



休業度数率

0.28%

通信教育講座数



111講座

国家技能検定資格取得数



8人

FTSの概要

会社概要・国内拠点紹介

社名	株式会社FTS
本社所在地	〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地
電話番号	0565-29-2211
代表者	取締役社長 磯部 利行
設立	1942年7月7日 創立82年 24.3.31現在
資本金	30億円
従業員数	1,447人(2024年3月31日現在) / グローバル: 3,074人(派遣社員除く)
事業内容	燃料タンク及び燃料タンク周辺部品・エンジン部品・ハイブリッド部品の開発・設計・製造ならびに販売、鋼板の加工・販売

国内グループ会社

株式会社アスノエンジニアリング



従業員 / 33人

業務内容

設備設計・制作、建屋営繕・修繕、電気工事、売店、清掃など

1989年操業
〒470-0224
愛知県みよし市三好町夕田54番地1

株式会社FTS九州 本社 大分工場



従業員 / 29人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)
樹脂リッドモジュール '25/1 ~

2015年操業
〒879-0314
大分県宇佐市大字猿渡字糸口1120番地の19

株式会社FTS九州 福岡工場



従業員 / 84人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)

2020年操業
〒823-0002
福岡県宮若市鶴田1896番地

グループ会社 Message



(株)アスノエンジニアリング
太田 一郎 社長

私たちはFTSグループの一員として生産設備やパレットなどの設計・製作、建物や施設の営繕、電気工事・保守点検、売店業務・物品販売などのサービスを提供するエンジニアリング集団です。時代の流れを迅速に捉え、常に新しい技術に挑戦し続け“お客様に選ばれ、喜ばれる提案型企業”をめざしています。



(株)FTS九州
岡田 久稔 社長

当社はFTSグループの九州の生産拠点として“明るく元気で前向きな職場”を合言葉に“地域に根差した事業運営”を行っております。FTS同様樹脂製燃料タンクの生産活動に従事しており、地域の皆様との繋がりを大切にしています。また、九州の豊かな自然を守るため廃棄物ゼロをめざして地球環境にやさしいモノづくりを進め、環境保護活動に取り組んでいます。

国内拠点

本社・本社工場



生産品目

フューエルタンク(樹脂・鉄)、フィラーパイプ(SUS)、フューエルリッド(鉄)、バッテリーケース

1961年操業

〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地

実験センター



業務内容

信頼性評価・強度安全評価・耐火試験

2002年設立

〒471-0836 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目5番地1

株式会社
アスノエンジニアリング

スチールセンター



生産品目

鋼板加工品

1971年操業

〒470-0224 愛知県みよし市三好町東山5番地

豊田工場



生産品目

フューエルタンク(樹脂)

2005年操業

〒471-0834 愛知県豊田市寿町1丁目33番地1

田原工場



生産品目

フューエルタンク(樹脂・鉄)
フィラーパイプ(鉄)

1985年操業

〒441-3401 愛知県田原市緑が浜四号1番9

広田工場



生産品目

フィラーパイプ(鉄)、樹脂リッドモジュール

1981年操業

〒473-0932 愛知県豊田市堤町寺池11番地

福岡県

大分県

株式会社FTS九州 福岡工場

株式会社FTS九州 本社 大分工場

岩手工場

(トヨタ自動車東日本(株)岩手工場内)



生産品目

フューエルタンク(樹脂・鉄)、
フィラーパイプ(樹脂)

2006年操業

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1番地

海外拠点紹介

台湾富德斯股份有限公司

(台湾フーデースー コフンユウゲンコンス)



従業員／26人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)

2019年操業
NO. 2, GUOJIAN 3RD., GUANYIN DIST., TAOYUAN CITY 32844, TAIWAN(R.O.C.)



FTSTW

五利江 学 総経理

台湾富德斯は台湾で初となる樹脂製燃料タンク製造工場です。製品は100%国瑞汽車様中壢工場に2019年から納入しております。再発防止までやりきれるようロジックや真因追究にこだわり、そのマインドは品質管理にも生かされ、3年連続で品質管理優秀賞をいただきました。地域貢献として海岸線の清掃活動も実施して参ります。

エフティエス オートモーティブ タイランド

FTS AUTOMOTIVE (THAILAND) CO.,LTD.



従業員／431人

生産品目

フューエルタンク(樹脂・鉄)
フィルターパイプ、フューエルリッド
ボデー部品

1997年操業
38 Moo 4, T. Pluakdaeng,A. Pluakdaeng, Rayong 21140 THAILAND



FTSTH

福田 博夫 社長

当社は、「Safety First, Quality No.1」をコンセプトとして、従業員 One Teamでお客様に“安全・安心を100%お届けする”ためのモノづくり活動を推進しております。特にTPS+KARAKURIを技とした改善活動による競争力強化の実現と地域社会へ貢献するため、地域小学校への寄付、CNに向けた植樹活動等、CSR活動も積極的に推進しております。

エフティエス オートモーティブ インドネシア

(PT. FTS AUTOMOTIVE INDONESIA)



従業員／617人

生産品目

フューエルタンク(樹脂・鉄)
フィルターパイプ、タンクバンド
一般プレス部品

1997年操業
East Jakarta Industrial Park Plot 8K-2
Cikarang Selatan Bekasi 17550 INDONESIA



FTSID

幡 修三 社長

我が社は「社員と家族の幸福」「会社の持続的成長」「社会への貢献」を社是として、国内自動車生産の約8割の燃料タンク・フィルターパイプを供給しており、その責任と誇りを持って日々安定生産に努めています。また、SDGsを積極的に推進すると共に、恵まれない家庭への奨学金支給等継続的に地域社会貢献を実施しています。

フューエルトータルシステムズテネシー

FUEL TOTAL SYSTEMS TENNESSEE, LLC



従業員／85人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)

2020年操業
102 Sam Watkins Boulevard Mount Pleasant, TN 38474 U.S.A

フューエルトータルシステムズケンタッキー

FUEL TOTAL SYSTEMS KENTUCKY CORPORATION



従業員／263人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)
フィルターパイプ

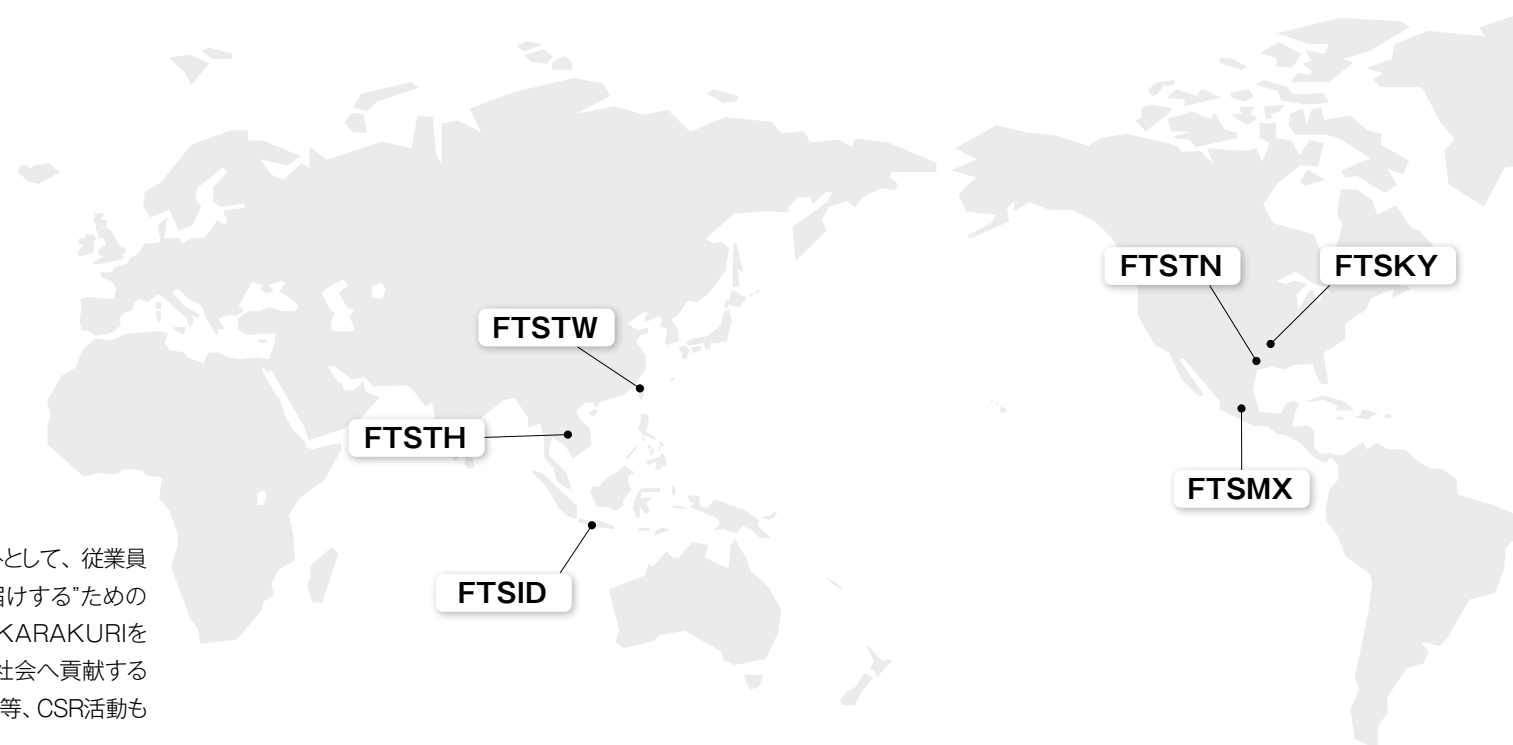
2004年操業
535 Corporate Drive, Lebanon, KY 40033 U.S.A



FTSKY/TN

犬塚 一樹 社長

当社は樹脂タンク製造・販売をケンタッキー州とテネシー州で行い、安全でクリーンな職場で改善が進む職場風土を醸成し、ロスの無い良品廉価なモノづくりで地域とお客様に貢献し信頼され続ける会社をめざしております。社員全員が当事者となってKAIZENや環境を意識したロス低減で社会・地域に貢献し社員が誇れる会社になるために努力し続けます。



エフティエス オートモーティブ メキシコ

FTS AUTOMOTIVE MEXICO, S.A.DE C.V



従業員／59人

生産品目

フューエルタンク(樹脂)

2019年操業
Carretera 45D, KM12.5, Interior 7, Pargue Automotriz Toyota Apaseo, Apaseo el Grande, Guanajuato, C.P.38180



FTSMX

福田 栄 社長

お客様に安心・信頼される品質と地域に根差した自立的な拠点経営をめざし、環境・社会貢献活動を積極的に取り組んでおり、小児がんの子供をサポートする施設へ生活物資提供や施設が運営するリサイクル部品加工業への廃棄材料等の提供、並びに、障がいを持つ将来の夢見る人を雇用する企業へのサポートに取り組んでおります。